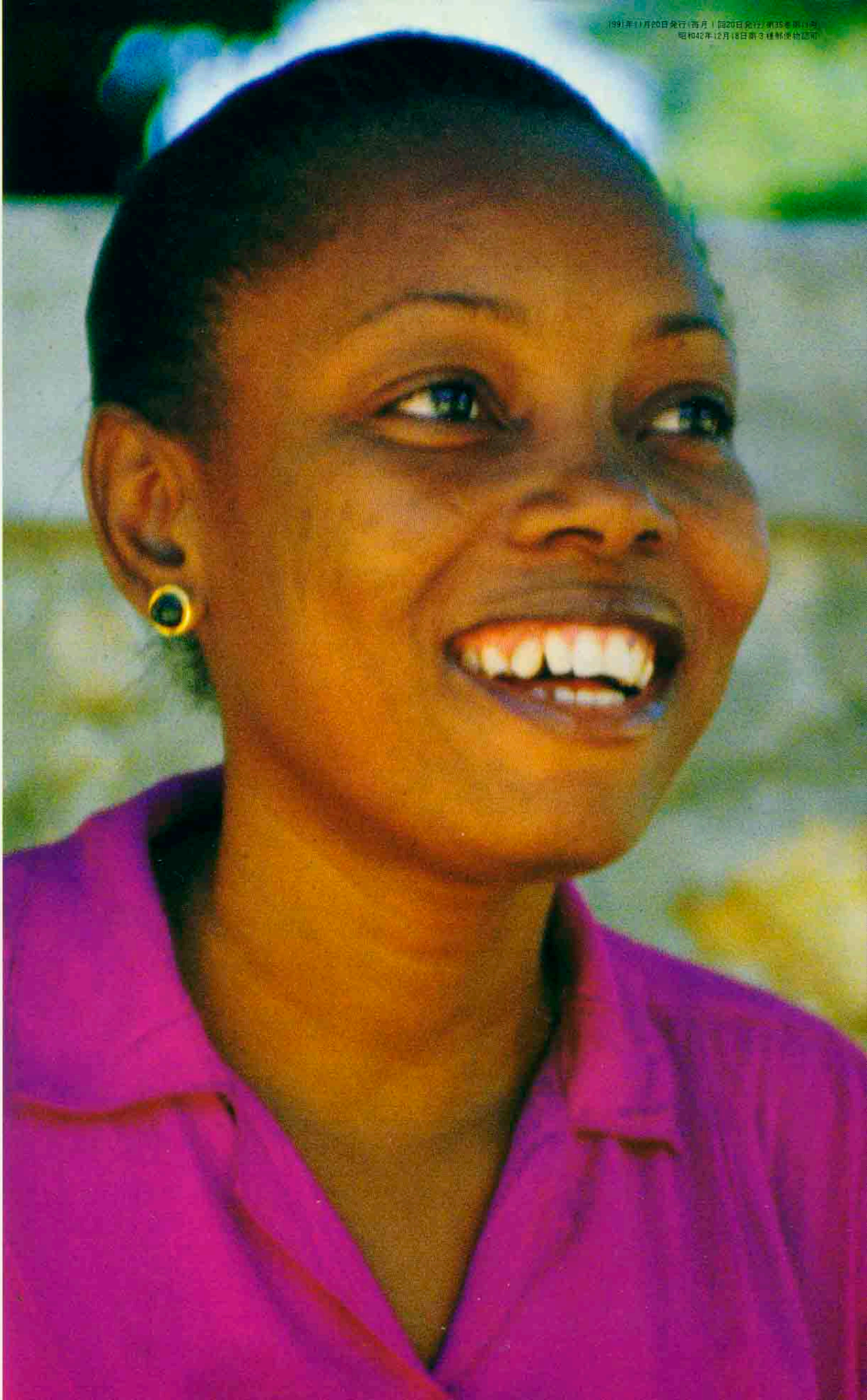
1991年11月20日発行（毎月1回20日発行）第35巻第11号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

聖徒の道

11
1991



末日聖徒
イエス・キリスト
教　会

聖徒の道

1991年11月号

表紙——
アンヘル・アモン・ステルゲス姉妹は，ほかの多くのハイチ人宣教師と同様，自国で伝道した。現在，首都のポルトープランスにあるペションビル支部に所属している。（「福音に希望を託すハイチの聖徒たち」本誌10ページ参照）

こどものページ表紙——
写真撮影マーティー・メーヨー

一　般

大管長会メッセージ——「汝らには赦すことを求めらる」
第一副管長ゴードン・B・ヒンクレー …… 2

福音に望みを託すハイチの聖徒たち
ジェド・バンデンバーグ，エリザベス・バンデンバーグ …… 10

八福の教え——救い主に近づくための道
S・マイケル・ウィルコックス …… 25

信仰を形に——末日聖徒の芸術
リチャード・G・オーマン …… 36

「死の蔭の谷」を越えて見付けた愛
ロイス・オーエン・タッカー …… 44

青少年

ロージーの受けた祝福　メアリー・ルー・ハワード …… 8

質疑応答——怒りの気持ちを抑えるには …… 20

予言者に会う　ドナ・シン …… 32

定期特別記事

読者からの便り …… 1

家庭訪問メッセージ——救い主を中心とした生活 …… 24

こども

世界一のたから物　ジュリー・ランバート …… 2

お手紙書くのは　楽しいよ！ …… 4

小さなお友だちへ——ジーン・R・クック長老 …… 6

分かち合いの時間——正しいことをえらぶゆう気
ローレル・ロールフィング …… 8

メリッサとモルモン経　ビッキー・ブルーム …… 10

おもちゃばこ …… 13

ジョン・テイラー　ケリーン・リックス …… 14

聖徒の道

1991年11月号

本誌は，末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本誌は以下の言語で出版されています。月刊――イタリア語，英語，オランダ語，サモア語，スウェーデン語，スペイン語，中国語，韓国語，デンマーク語，ドイツ語，トンガ語，日本語，フィンランド語，フランス語，ポルトガル語，ノルウェー語。隔月刊――インドネシア語，タイ語，タヒチ語。季刊――アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：ハワード・W・ハンター，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウスト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン，リチャード・G・スコット
顧問：レックス・D・ピネガー，チャールズ・ディディエ，ジョン・H・グローバーグ，ロバート・E・ウエルズ
編集長：レックス・D・ピネガー
教科課程管理部実務部長：ロナルド・L・ナイトン
教会機関誌ディレクター：トーマス・L・ピーターソン
国際機関誌
編集主幹：ブライアン・K・ケリー
編集主幹補佐：マービン・K・ガードナー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集補佐／こどものページ：ディエーン・ウォーカー
チーフアートディレクター：M・マサト・カワサキ
アートディレクター：スコット・D・バン・カンペン
デザイナー：シェリー・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン，スティーブ・デイトン，ジェーン・アン・ケンプ，デニーズ・カービー
工程管理：ダイアナ・バンスタブレン
配送部長：ジョイス・ハンセン

聖徒の道 1991年11月号第35巻第11号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106 東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
印刷所　株式会社　精興社/クロスロード
定価　年間予約/海外予約2,200円(送料共)
半年予約 1,100円(送料共)
普通号 150円，大会号 350円
International Magazine
ITEM 91991 300
Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1991 by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期講読は，「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか，または現金書留か郵便振替(口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振替口座番号／東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ，直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先…〒106東京都港区南麻布5-10-30管理本部経理課☎03-3440-2351(代表)●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ…〒213川崎市高津区溝の口131／末日聖徒イエス・キリスト教会　資材管理部配送センター☎044-811-0417

The *Seito No Michi*(ISSN 0385-7670)is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150. Second-class postage paid at Salt Lake City, UT 84150. Subscription price $14.00 a year. $1.50 per single copy. Thirty days' notice required for change of address. When ordering a change, include address label from a recent issue; changes cannot be made unless both the old address and the new are included. Send U.S.A. and Canadian subscriptions and queries to Church Magazines, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A. Subscription information telephone number 801-240-2947.

POSTMASTER: Send address changes to *Seito No Michi* at 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150, U.S.A.

読者からの便り

より良い家庭生活

「リアホナ」(ポルトガル語版)に感謝しています。

毎月の様々な記事は，より良い家庭生活を送るうえでも，教会での奉仕をもっと効果的に行なっていくうえでも役立っています。

これからも「リアホナ」が発行され続けて，多くの人々の生活に良い影響が与えられるように願っています。

ブラジル
サンベルナルドステーキ部
サンベルナルド第3ワード部
ロジルダ・マリア・デ・ソーザ・ユベンチノ

証を強める

いつも「シュテルン」(ドイツ語版「星」の意味)を楽しく読んでいます。この本は，私の証を強めるのに役立っています。そして，私は毎月この本が届くのを心待ちにしています。とりわけ大管長会メッセージと，福音を広める宣教師の働きについて読むのが好きです。

私は神権と伝道活動に関する記事をもっと多く読みたいと思います。

ドイツ
ミュンヘンステーキ部
ニュルンベルクワード部
カールベメナー・バートッシュ

信仰を鼓舞するものとして

私はここフィリピンで発行されている教会の定期刊行物「タンブリ」に言葉では表わせないほど感謝しています。掲載される話はいつも，時宜(じぎ)にかなっており，適切で，信仰を鼓舞してくれます。家族，隣人，そして特に天父と私との関係を改善するうえで役立っています。

「タンブリ」を読むたびに，重荷が軽くなり，信仰が強められます。そして，私に欠点があるにもかかわらず，神様が本当に私の祈りを聞いてくださっていると確信することができます。

2歳の息子は「タンブリ」の子供のページに興味を持ち始めました。子供のページを一緒に読んであげていると，息子がどんなにわくわくしているかが伝わってきます。一緒に読んでいるおかげで，私たち家族のきずなは強められています。またそれが世の圧力に対する備えにもなっています。

フィリピン
ラスピナスステーキ部
サンペドロワード部
レアネル・M・スマグパオ

待望の本

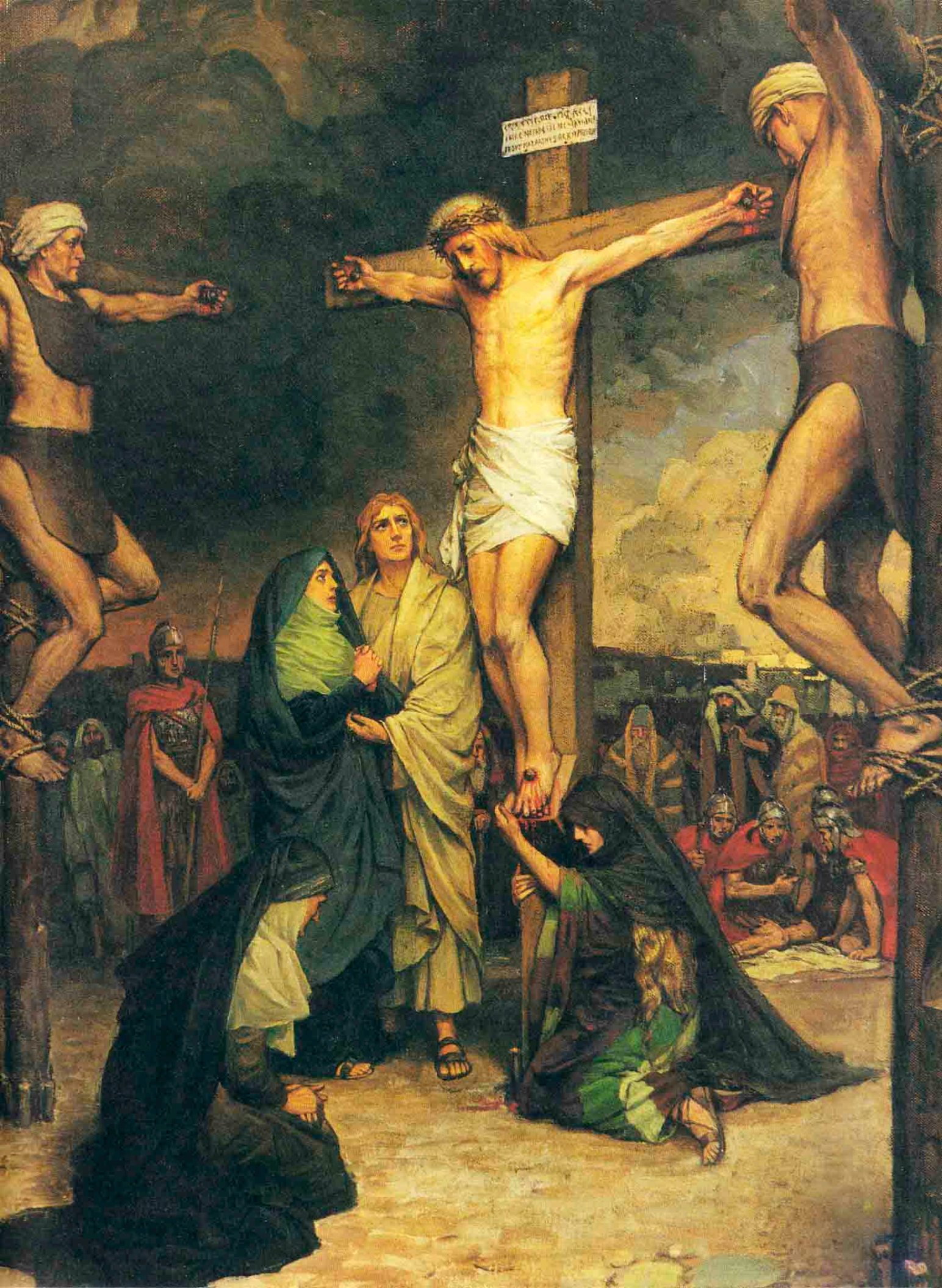
「レトワール」(フランス語版「星」の意味)が，私にとってどれほどの祝福であるか，知っていただきたいと思います。2年間，私はこの本を読んできましたが，毎月私の心と霊と信仰は，掲載されている記事によって奮い立たされています。私は「レトワール」によって，主がいかに私たちを愛し，助けてくださっているかもっとよくわかるようになりました。

トントゥタの小さなワード部の会員にとって，「レトワール」が届くときが，待ちに待ったこの上ない瞬間です。この本を受け取った次の日曜日に，ワード部の会員たちは読んだ記事について話し合います。皆でどの記事に特に感動したかとか，自分の証が強められたかについて話し合います。

この本を通して，世界の様々な地域の教会員について知ることにより，何百万という末日聖徒の家族が共に結ばれるのです。彼らの経験と信仰のおかげで，私たち一人一人は自分なりの方法でどのように隣人に奉仕していったらよいかを学ぶことができます。

たとえば，価値ある地域社会の活動に参加するようにという指導者の言葉に励まされたある人々は，子供たちが通っている学校で奉仕をしています。私たちは生活の中で神様を第一とし，「みたま」を伴侶とするにふさわしい生活をするならば，私たちの努力が必ず実を結ぶことを知っています。

ニューカレドニア
トントゥタ
ヤバンナ・レ・ピロンニー



「汝らには赦すことを求めらる」

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

赦しの精神と，愛と思いやりのある態度をもって，自分を苦しめる原因となった相手に接するのは，イエス・キリストの福音の真髄です。私たちに必要なのはこの精神です。全世界もそれを必要としています。主はその真髄を教え，みずからその模範を示されました。それに勝る模範はありません。

カルバリの十字架上で苦痛に耐えておられたときでさえ，ご自身を過酷な十字架につけた実に卑劣な憎むべき人々に対して，主はこのように言っておられます。「父よ，彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか，わからずにいるのです。」（ルカ23：34）

私たちはだれもこれほど寛大に赦すようには求められていませんが，赦す気持ちと憐れみの心をもって人々に接する義務は，主によって私たちに課せられています。主は啓示の中で次のように言明しておられます。「古えわが弟子たちにして陥入れんとする機をねらい心中互いに相赦すことなき者ありたるが，彼らはこの悪のために苦しみまた甚しき懲しめを蒙りしなり。

この故にわれ汝らに告ぐ，汝ら互いに赦し合うべきなり。そは，人その兄弟の過ちを赦さざれば，その人主の前に罪に値する故にして，そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。

主なるわれは，その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる。

汝ら心の中に言うべきなり。神をして汝とわれとを審き，また汝の行為によりて汝に報いを与えしめよ，と。」（教義と聖約64：8—11）

私たちは，神から与えられたこの原則と，それと不可分の関係にある悔い改めの原則を，適用する必要があります。家庭の中でささいな誤解がもとで激しい言い争いに発展してしまったときや，隣人との間の小さな意見の相違が果てしのない苦々しさを抱く結果に至った場合に，これらの原則が必要になります。仕事仲間と仲たがいし，歩み寄ることを拒否しているときなどにも必要です。ほとんどの場合，一緒に腰を下ろして穏やかに話す気持ちが双方にあれば，事態は万事円満に解決できるものです。そうでなければ，かえって敵意を募らせ，あれこれと仕返しを考えて時を過ごす結果になります。

十字架上で苦痛に耐えておられたときでさえ，救い主はこう言われました。「父よ，彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか，わからずにいるのです。」（ルカ23：34）

憎しみという毒のある思いを，
相手に募らせている人々がいるなら，
赦す力を主に請い求めるように
申しあげたいと思います。

教会が組織されたその年，予言者ジョセフ・スミスは彼を亡き者にしようとたくらむ人々によって何度か捕らえられ，言い掛かりをつけられましたが，それに対して主は啓示を通して次のように言われました。「何人たりとも汝を訴うる者あらば，彼はかえって律法によりて咀われん。」(教義と聖約24：17)今の時代にも，執念深く恨みを晴らそうとする人々はいます。試合などで勝利を得ても少しも心の和まない人々がいます。そのような人は金銭的な報酬は得たとしても，一方ではもっと大切なものを失っているのです。

辛らつさを避ける

フランスの作家モーパッサン(1850―1893年)の作品に，オーシュコルンという名の農民を描いた短編小説があります。オーシュコルンは市の立つ日，町にやって来ます。広場の方に行こうとしていたら，ふと地面にひもの切れ端が落ちているのが目に入りました。彼はそのひもを拾い上げると，ポケットに入れました。ところが彼のその行為をじっと見ていた人がいました。町の馬具師で，以前ふたりは悶着を起こしたことがありました。

その日遅くなって，財布が盗まれたことが伝えられました。オーシュコルンは馬具師の訴えによって捕らえられます。町長の前に連行されたオーシュコルンは，自分が拾ったひもの切れ端を見せて無実を主張します。しかし，彼は信じてもらえず，ばかにされてしまいます。

翌日財布は見付かり，オーシュコルンは無罪放免となります。しかし，虚偽の訴えによって侮辱されたことにひどく憤慨した彼は，それからというもの敵意を募らせ，何があってもひもの一件は忘れませんでした。赦し，忘れる気持ちのなかった彼は，ただそれだけを思い詰め，そればかりを話題にしました。やがて畑仕事も投げ出してしまいました。行く所，会う人ごとに，彼は自分が不当に扱われたことを触れ回りました。明けても暮れてもただもうひもの件に一心不乱の有様でした。この一件が頭から離れなかったオーシュコルンは，重い病気にかかり，とうとう死んでしまいます。臨終のうわごとにも，繰り返し，繰り返し言います。「短いひもでさ……ほんの短いひもで……。」(『ひも』「筑摩世界文学大集47，モーパッサン」筑摩書房刊，昭和46年，p.382)

相手や環境が異なっても，この種の話は現代でも度々起こり得ます。自分を傷つけた人を赦すこと，だれにとってもこれほどむずかしいことはありません。だれしも自分に対してなされた悪事についてはなかなか忘れられないものです。くよくよ考えていると，それはやがて心をさいなみ，精神をむしばむ病根となります。赦し，忘れること以上に現代において実行を必要とされる徳があるでしょうか。これを弱さのしるしと見なす人もいますが，はたしてそうでしょうか。非道な仕打ちを受けたことに腹を立て，それをいつまでも根に持って，あれこれ仕返しを考えることに精力を浪費しながら生活することは，強くも賢くもないと，私は思います。恨みを抱いていると心に平安がありません。仕返しのできる日を待ちわびて送る生活に，幸福はありません。

パウロは，人間の生活の「無力で貧弱な，もろもろの霊力」(ガラテヤ４：９)について述べていますが，苦痛の原因を作った相手に，尽きることのない苦々しい思いと復しゅう心を抱きながら人生をすり減らすのは，最も弱々しい貧弱な生活態度です。

ジョセフ・F・スミス大管長は，末日聖徒への反感が非常に強かった時代に教会を管理しました。スミス大管長は卑劣な非難の的となり，ユタ州においてさえも新聞記者たちから激しい中傷を受けました。嘲笑され，漫画で風刺されたのです。ところで，彼を笑いぐさにした人々に対して，スミス大管長はどのようにこたえたでしょうか。読んでみましょう。「彼らをひとりにさせ，行

かせなさい。望む言論の自由を与えなさい。彼らに思うままに話しをさせ，自分の運命を書かせなさい。」(「福音の教義」p.327)赦し，忘れるという並外れた寛大な心の持ち主であったスミス大管長は，きわめて積極的にみ業を進め，数々の著しい業績を上げて教会をさらに発展させました。その結果，スミス大管長が亡くなったとき，かつてスミス大管長を嘲笑していた人々の多くは大管長を称賛する言葉を寄せたのです。

私はある夫婦から長々と話を聞いたことがありました。私の机をはさんで座ったふたりの間には苦悩が感じられました。かつてはふたりの愛も深く，本物であったに違いありません。しかし，互いに相手の欠点を口にする癖がこうじて，だれにもあるような間違いでも赦せなくなり，忍耐し合う気持ちを失いました。互いに粗捜しを始め，ついにはかつての愛も無くして離婚という破局に至ったのです。そうなれば寂しさと相手に対する非難しかありません。もしこのふたりに悔い改めと赦しの気持ちが少しでもあったなら，ふたりは今もなお結婚生活を続け，新婚当初に豊かな恵みをもたらした夫婦愛を享有していたに違いありません。

赦しがもたらす平安

もしこの夫婦のように，人に対する憎しみという，毒のある思いを募らせている人々がいるなら，赦す力を主に請い求めるように申しあげたいと思います。このような望みを表わすことが，まさに悔い改めそのものなのです。主に赦しの力を請うのは容易でないかもしれませんし，その力がすぐに得られるとも限りません。しかし，もし真剣に求め，その望みをはぐくんでいけば赦しの力は得られるでしょう。また，たとえ赦した相手がなお苦しめ脅かし続けたとしても，あなたには和解のために自分にできることはすべて行なったということがわかるでしょう。そして，ほかの方法では得られない平安な気持ちが心の中に広がっていくのを感じるでしょう。この平安は，主から来る平安です。主はこのように言っておられます。

「もしも，あなたがたが，人々のあやまちをゆるすならば，あなたがたの天の父も，あなたがたをゆるして下さるであろう。

もし人をゆるさないならば，あなたがたの父も，あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。」(マタイ 6：14—15)

放蕩息子

私は，あらゆる文学作品の中でルカによる福音書第15章に出てくる話ほど，心を打つすばらしいものはないと思います。それは，悔い改めた息子と，その息子を赦す父親の物語です。父親の忠告を受け入れず，自分を愛してくれる人々もはねつけた上，相続財産を放縦な生活で使い果たしてしまった息子の話です。彼は身代を食いつぶして，食べ物にも窮する有様でしたが，どこにも頼る当てがなくなりました。そこで「彼は本心に立ちかえって」(ルカ15：17)，父親のもとに戻ってきました。はるか遠くに息子が帰って来るのを認めた父親は，「走り寄り，その首をだいて接吻し」(ルカ15：20)ました。

私は，皆さんにこの物語を読んでいただきたいと思います。父親，母親である方は皆，繰り返しお読みになってください。この物語はどの家族にも当てはまる大変幅広い意味を持っているだけでなく，全人類にも関係する含蓄を秘めています。というのも，私たちは皆，悔い改めて天の御父の恵みである赦しにあずかり，その後御父の模範に従う必要のある放蕩息子，娘だからではないでしょうか。

御父の愛子である私たちの贖い主は，赦しと慈愛をも

「まだ遠く離れていたのに，
父は彼をみとめ，
哀れに思って走り寄り，
その首をだいて接吻した。」
（ルカ15：20）

って私たちに手を差し伸べてくださっていますが，同時に悔い改めを命じてもおられます。高潔な心をもって真に人を赦すなら，その命じられた悔い改めを実践することになるでしょう。主が予言者ジョセフ・スミスにお与えになった啓示から引用してみましょう。

「この故に今われ汝に命ず，悔い改めよ。わが口のしもとと，わが怒りと，わが憤りとを受けて汝の痛苦甚しからざらんがために悔い改めよ。すなわちその痛苦の如何に甚しきかを汝知らず，その如何に強烈なるかを汝知らず，また如何に堪え難きかを汝知らざるなり。

見よ，われは神なるに，人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざらんがために，すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。

されど，人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。

その苦しみたるや，われ神，すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ，あらゆる毛の孔より血を湧かせ，身と霊と両つながらを苦しめ，すなわちこの苦きさかずきより呑まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。……

われに就きて学び，わが言を聴き，わが『みたま』の柔和なる道を歩め。さらば，汝われに在りて安きを得ん。」（教義と聖約19：15—18，23）

これが主の戒めです。また，次のような範例となる偉大な祈りを残された主の約束なのです。「天にいますわれらの父よ，……わたしたちに負債のある者をゆるしましたように，わたしたちの負債をもおゆるしください。」（マタイ６：９，12）

「傷ついた者の手当てをしようではないか」

南北戦争という悲惨な出来事の中で，アブラハム・リンカーン（1809—1865年，アメリカ合衆国第16代大統領）は次のような美しい言葉を残しました。「何人にも敵意を抱かず，すべての人に愛を持って，……傷ついた者の手当てをしようではないか。」（ジョン・バートレット「古今名言集」p.640）

兄弟姉妹の皆さん，傷ついた人々の手当てをしようではありませんか。辛らつな言葉によって傷ついている人，しつように不満の種をくすぶらせ，傷つけられた相手に仕返しをすることを考えてみずから傷ついている人が，大勢いるのです。私たちはだれでも，この恨みを晴らしたいと願う心を少しなりとも持っています。しかし幸いにも，もし外とうのごとく愛の絆，すなわち完全と平和の絆を身にまとうならば（教義と聖約88：125参照），私たちはだれでもそのような心に打ち勝つ力を持てるのです。

「あやまちは人の常，赦すは神の業。」（アレキサンダー・ポープ「批判論」2：1711）古傷の痛みをあれこれ思い出すところに平安はありません。平安は悔い改め，赦すことによって初めて得られるものなのです。これこそ次のように言われたキリストから来る平安なのです。「平和をつくり出す人たちは，さいわいである，彼らは神の子と呼ばれるであろう。」（マタイ５：９）□

ホームティーチャーへの提案

1．苦しみの原因を作った相手に対する赦しの精神，愛のある態度こそ，まさに福音の真髄である。
2．救い主が模範を示された赦しの精神は，家庭，隣近所，職場の人間関係の中などで，人との関係を築くうえで常に必要とされている。
3．主の赦しを受けるには，ほかの人々を赦すことを求められる。
4．私たちを隔てている心の傷を癒して，お互いを結び付ける平安を得なければならない。

ロージーの受けた祝福

メアリー・ルー・ハワード

養護施設の聖餐会に出席するのは久し振りでした。今回は，ステーキ部扶助協会会長会の一員として，この施設で開かれるワード部大会に出席するための訪問です。

前奏曲が流れている間，部屋中を見回してみました。老いと共に訪れる障害に悩んでいる人もいれば，生まれながらに障害を負っている人もいます。彼らは，四六時中，戦っていなければなりません。ただ座り，車いすに乗っているだけでも，並大抵の苦労ではないのです。

私の左わきには，聴衆から少し離れて，なじみの深い車いすが来ていました。以前から訪問するたびに，私はこの小柄な婦人を見舞っていました。まっすぐで豊かな髪が，彼女のやせた顔を際立たせていました。あごがゆがんで開いたままの口から，ともすると舌がのぞいています。体は関節が逆方向にでも曲がろうとしているかのように，よじれていました。それでも，車いすに結び付けらけたまま，彼女もほかの人々と共に聖餐会の始まりを熱心に待ちわびているようでした。

開会の賛美歌を歌い，祈りを捧げ，集会が始まると，私は聖餐のテーブルの方を見やりました。片方の祭司は自信ありげで，経験もあるようでしたが，もうひとりの祭司は緊張しているのがはた目にもわかります。執事たちに目を移すと，彼らはテーブルの前に立ち，トレイを受け取り，パスを始めました。

執事のひとりが車いすの婦人に近づきます。彼女の腕は車いすのひじ掛けにじゃまされて曲がっている上に，まひした肩は動きません。執事の少年が身をかがめると，車いすの女性は歯の抜けた，ゆがんだ口を開けました。ためらいもなく，少年は1片のパンを彼女の舌に載せます。

部屋の反対側から，甲高い声が聞こえました。「やさしいわね，あの子，ロージーにパンをあげるのを見た？」

水の祝福が終わると，私は心の中で考えました。「私が立って行って水を飲ませてあげた方がいいかしら。でも，うまく飲んでくれるかしら。」こちらが及び腰になっていると，同じ執事が，彼女の開いた口にそっと水を注いでいます。再び，奉仕をもってロージーを祝福したのです。

座ったまま何もできずにいたことを恥じていると，その少年が私の前に来ました。手は震え，目には疑念の色が浮かんでいて，自分の行為が正しかったかどうかを知りたいと訴えています。私はこの少年の強さとやさしさを見ました。私はうなずいて，彼の不安を静めるように，ほほえみを返しました。

少年は人に言われてあのようにしたか，それとも訓練を受けていたのでしょうか。あるいは，自分から進んでしたのでしょうか。いずれにしても，12歳の少年には，勇気の要ることだったと思います。若い神権者が，静かに定員会の義務を果たすのを見て，深い感銘を受けました。□

福音に望みを託す ハイチの聖徒たち

ジェド・バンデンバーグ
エリザベス・バンデンバーグ

厳しい環境の中にあっても，ハイチの聖徒たちは前途に明るい希望を抱いています。

「私の人生の目的はこの地にあります。」こう言ってフリッツナー・ジョセフ兄弟はハイチに戻ってきました。彼はカリブ海に浮かぶこの小さな島国の初期の教会員のひとりです。ジョセフ兄弟は1979年にバプテスマを受け，２年後プエルトリコで伝道しました。1988年，彼はプエルトリコで大学を卒業し，アメリカ合衆国で就職する話もありましたが，ハイチで教会教育部のセミナリー地域指導主事としての仕事を受けることにしました。

フリッツナー・ジョセフ兄弟

彼の管轄する地域はハイチ全土です。この国とドミニカ共和国とは，イスパニオラ島を２分して領有しています。国民の大部分はフランスの植民地開拓者たちによってアフリカから連れてこられた黒人奴隷の子孫です。人々の多くは，急な斜面にサトウキビやバナナなどの作物を栽培して生計を立てています。ハイチとは先住民であるアラワック語族のインディアンの言葉で「山の多い土地」という意味です。ハイチ国内の森林はほとんど切り開かれていますが，それでもまだ600万の人々が農業や生活の必要を満たすには土地が不足しています。

「ハイチの国民は厳しい試練に直面しています」とジョセフ兄弟は語っています。ひとつには，ハイチは西半球で最も貧しい国であり，他方また，ハイチ社会の風潮が，伝統的な本来の家庭を築くのをむずかしくしているからです。また，古くから伝わるハイチの迷信は教会の教えと相反しています。

しかし，ハイチの会員たちにもイエス・キリストの福音があり，それが「将来に対する私たちの希望なのです」とジョセフ兄弟は述べています。

ハイチでは，希望を持つことが大切です。フリッツナー・ジョセフ兄弟のような教会員が，ときには自分の望みを犠牲にして，自国の末日聖徒の胸に希望の灯をともし続けようと懸命に働いています。その結果，回復された福音はハイチの会員たちの生活に目覚ましい変化をもたらしています。それらは生活の維持に不可欠な食糧政策や病院，あるいは慈善団体の設立した学校などですら実現できなかった変化なのです。

著しく拡大するポルトープランス市とその郊外から地方の小さな村にまで，ハイチには18の支部が点在しています。ハイチの全教会員数はほぼ3,500人です。1990年１月に，ハイチ・ポルトープランス地方部は，ポルトー

左　扶助協会会長のジェルダ・サノン姉妹はこう語る。「扶助協会はハイチの姉妹たちが日々の問題を解決するのに役立っています。教会の姉妹たちは家族のようです。」右　デルマ支部の初等協会会長を務めるヤニック・ポーリン姉妹(後列右)は，この私立保育園の保母でもある。ここでは，養育料を支払えない子供たちの家庭に補助金を出し，食料を支給している。

プランス南地方部と，ポルトープランス北地方部に分割されました。およそ140人の宣教師が，現在ハイチで伝道しており，そのうち26人が地元出身の宣教師です。宣教師たちは，この国の公用語であるフランス語がアフリカ語，スペイン語，英語と混合してできたクリオール語を使って，人々と上手に言葉を交わしています。

「貧しい民も福音に従えるでしょうか」

「ほかの国の人々には信じ難いでしょうが」と，ジョセフ兄弟は説明します。「私たちはパンよりも前に，『神の口より出ずるあらゆる言』(教義と聖約98：11)を欲しているのです。貧しい民も福音に従えるでしょうか。もちろん，できます。地上のことを置いてまず神の国を求めなさいとイエスが言われたとき，イエスは貧富の差を越えて万人に向けて言われました。そうするときにだけ，祝福が得られるからです。」

ハイチの末日聖徒の指導者たちは，福音のもたらす変化と，ハイチ社会の改革努力がもたらす変化とでは，違うことを強調します。「教会では，会員たちはキリストを通して自分自身を変えることができます」と，新しくできたポルトープランス北地方部の地方部長，ジャー・クルド・デュマ兄弟は語っています。「神は，古代の予言者と同じことを行なうように，私たちに求めておられるのです。彼らには命じられた事柄を成し遂げるために何ら明確な手段はありませんでした。それでも何とかやり遂げ，成功しました。神は現在でも同じことを期待しておられます。」ハイチの人々は教会を通して職業訓練を受けることができます。宣教師たちは，字の読めないハイチの人々に，聖典と一緒に読み方も教えようと懸命に努めています。

ポルトープランス伝道部の第二副伝道部長を務めるフリッツナー・ジョセフ兄弟によれば，「世界中のお金を集めても，生活を変えることはできません。建物や寄付も一時的には役に立ちますが，永遠の見地からみれば何ももたらしてはくれません。しかし，福音は一人一人の心に触れ，永続的な変化をもたらしてくれます。」

ポルトープランス中央支部の支部長，アレックス・ラゲール兄弟(23歳)は，そのような変化が確かなものであることを証明するひとりです。「何の目的もない生活がどんなものかわかりますか。バプテスマを受ける前の私が，そうでした。」教会に入って以来，ラゲール兄弟はハイチ国内で伝道し，自分の時間のほとんどを支部の会員たちのために使っています。「生活がまったく変わりました。今は秩序と目的のある日々を送っています。私は，将来の家庭生活や，教会での奉仕など，以前は考えたこともない希望をたくさん抱いています。」

南地方部の地方部長のエディー・ボルドー兄弟(28歳)は，以前は，ハイチの教会福祉事業のディレクターを務めていました。教会員に職業訓練を施したり，職をあっせんするのが彼の仕事でした。「一部の人々は熱心に努力をしましたが，そうでない人々もいました。求められたことは何でも喜んで行ない，信仰とは何であるかを実際に見せてくれた人々もいます。彼らは度々正装して教会に集い，笑顔を見せていましたが，家に帰れば食べる物もない状態だったのです。それでも彼らは教会に通い続けました。」

ハイチでは一部の教会が集会に出席する人々に無料で教育を施したり，病院で治療を受けられるようにしたりして，様々な援助を与えています。そのような環境の中で末日聖徒イエス・キリスト教会に集うのは，特別な人々です。そうした人々は，什分の一を納め，神の戒めを守り，助けの必要な人々に援助の手を差し伸べるのは，報酬を期待してではなく，そうすることが正しいからである，という証を述べます。指導者たちは，彼らは周囲に希望の光を投げ掛けている，と語ります。

家庭を築く

昔ながらの本来の家族形態が珍しい社会の中では，会員たちが自らの手で遂げつつある変化が希望を生み出しています。不純な異性交際が当たり前のように行なわれ

左　インスティテュートを受講するオリオル・アテュース兄弟とアンヘル・アモン・ステルゲス姉妹。アテュース兄弟はポルトープランス北地方部の副地方部長を務め，ステルゲス姉妹はペションビル支部の会員である。
右　レイノルズ・セントルイス，ジースラン・セントルイス夫妻は，福音により永遠の家族になれることを知っている。ふたりはいつの日か，神殿で子供と共に結び固められるのを待ち望んでいる。

ていて，未婚の若い女性が扶養の必要な子供を数人抱えていることもよくあります。しかし，初等協会で奉仕する17歳のクリスティー・ジャスティ姉妹は，自分の教える子供たちが将来のハイチを担う開拓者になると考えています。「教会で教える模範的な家庭生活を実際に学んだり見たりしているので，教会の子供たちは，将来，堅固な家庭を築くと思います。」そうジャスティ姉妹は言います。

24歳の扶助協会教師，ナンシー・ウォイ姉妹は，自分はハイチ人の中では特別であると語っています。「私は普通の家庭を築くように育てられてきました。」彼女はこの理想を敬虔（けいけん）なカトリック信者である両親から教えられました。彼女の両親は結婚して24年になります。「しかし，ハイチの若人の多くは本当の結婚のすばらしさを知りません。」彼女はそう付け加えました。

「私は家庭とは何なのか本当にわからなかったのです。13歳のときから性的に乱れた生活を送っていたからです。福音を知って生活のすべてが変わるまで，自分の過ちに気付きませんでした」と，教会に改宗した後，伝道の準備を進めているひとりの若い兄弟が語ります。

この兄弟をはじめとして，ハイチの教会員たちが固めつつある健全な家庭を築くための基盤は，彼らの特質の一部である愛情と温かさと謙遜（けんそん）さによって支えられています。特にハイチの母親は，無私の模範を子供たちに示しています。彼女たちは家族の情緒的な支えとなり，かつ経済的に家族を養っている場合も往々にしてあります。地方出身者のひとり，19歳のジーン・ピエール・エルンソー姉妹は，母親が朝から晩までバナナや油を売っていた姿を覚えています。エルンソー姉妹の母親は７人の家族を養い，全部の子供たちを私立の学校に通わせました。

このような家族が教会に入ると，彼らは一致，目的，愛の力によって前進するようになります。「教会に入って以来，私たちの気持ちはさらに一致するようになりました。家族の祈り，聖典の勉強を通して，家庭に大きな愛が芽生えています」と，３人の息子と娘をひとり持つウィルヘルミナ・プライス・オリビエ姉妹は言います。

彼らは，「スーパー・ファミリーホームイブニング」と呼ぶ集会をときどき開いて，愛と一致の精神を人々と分かち合っています。このときは近所の人がこぞって集まり，食べたり，ゲームをしたりして，宣教師に会う機会を得ます。「多くの人がこの家庭の夕べで教会を知り，改宗しました」と，菓子を作って生計を立て，子供たちを学校に第６学年まで通わせたオリビエ姉妹は語ります。

レイノルズ・セントルイス兄弟とジースラン姉妹が夫婦で教会に入ったときは，すでに子供がいて，夫は医療技術者，妻は小児科医として専門的な仕事を持つ，恵まれた状態にありました。ペションビル支部の会員，セントルイス兄弟は次のように述べています。「教会に入ったのは1980年でしたが，それ以前は永遠という観念をまったく持っていませんでした。もちろん今では永遠についての理解も増し，ふたりの子供といつの日か，神殿で結び固められる日を待ち望んでいます。」

フリッツナー・ジョセフ兄弟は，ハイチの若人は国を変革すると信じています。「私がハイチにとどまって，若人を強めるために全精力を傾けているのは，そのためです。会員の70パーセントは若人です。彼らは堅固な家庭，力強い教会，強固な国家を作り出すと思います。」

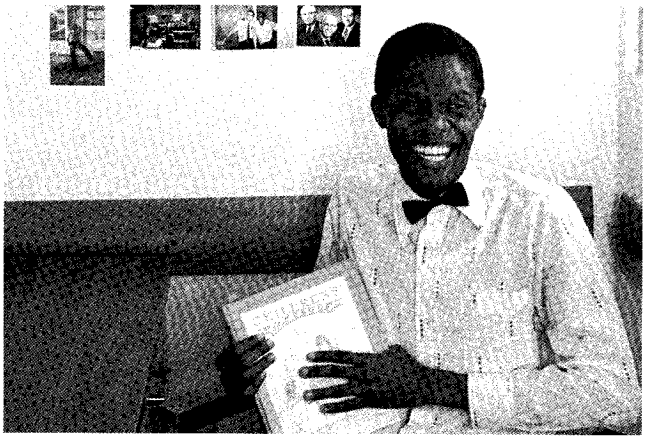
若い教会員が大勢いるハイチでは，独身会員への援助や彼らの関心事がなおざりにされることはありません。「教会には高い標準を持った独身者がいます。」支部の演劇に一緒に携わって，妻のエブリーン姉妹と出会ったジョセフ・セラ兄弟はそう語ります。帰還宣教師のケリーン・バルボ兄弟は「教会にいれば，決して孤独に陥ることはありません。会員たちは家族のようだからです」と言っています。

ブードゥー教を乗り越えて

福音は，経済的，道徳的な試練に直面している会員たちの助けになるだけではなく，ハイチで伝統的な勢力を持つブードゥー教に打ち勝つ力も与えてくれます。ハイチのブードゥー教は，伝統的なキリスト教の象徴や諸儀

MIRLENE
DEMORCY

左　デルマ支部扶助協会会長のリンダ・ジーン・バプティスト姉妹は，保育園の保母として働いている。彼女は園児の自尊心を育て，キリストのような愛の模範を示したいと望んでいる。
右　ポルトープランス中央支部の支部長，アレックス・ラゲール兄弟は教会の出版物をハイチのクリオール語に翻訳している。



式に，霊媒，呪術，血の犠牲などを混合させた一種の霊魂崇拝が結び付いたものです。

一部の会員は教会に入る前は，ブードゥー教と伝統的なキリスト教の両方を信奉していました。ジョセフ兄弟は次のように言っています。「彼らは教会に入る以前は，両方の宗教に従っていました。今はそのいずれの教えにも従えないことを彼らに悟らせるのは，大変むずかしいんです。」しかし，そのような人々も福音の証が増すにつれ，次第にブードゥー教に引かれなくなっていきます。ブードゥー教に従わなくなると，家族関係や交友関係を絶たれたり，仕事を失うことさえあります。失業率が50パーセント以上のこの国では，それは大変な犠牲なのです。

北地方部の第一副地方部長，オリオル・アテュース兄弟はブードゥー教を拒否したため，ふたつの就職先と，昇進の機会を失いました。「どこへ行っても成功するには，ブードゥー教を信仰しなければなりません。私はこれまで何回も，雇い主や採用者から，教会とブードゥー教のどちらを取るか選択を迫られました。そのたびに，仕事や昇進を失ってきたのです。今は給料の安い所で働いていますが，そうするだけの価値はあるんです。」

ほかの教会員にとって，ブードゥー教を捨てることは大きな試練です。貧しい会員たちはブードゥー教を信じる人々が経済的に成功しているのを見ると，「ブードゥー教に戻りたいという誘惑に苦しむのです。」最近改宗した，作家であり発明家でもあるウィルフリード・エリー兄弟はそう語ります。「しかし，ブードゥー教は真理を曲げるものですから，本当の真理と相対するときは弱いのです。私は敵に打ち勝つために，神から授かった神権を使ってきました。神権は私にとってすべてです。神権は神からの賜であることを私は知っています。」

再出発

エディー・ボルドー兄弟が1983年にバプテスマを受けたとき，分割前のハイチ全域を管轄する地方部長になるとは夢にも思いませんでした。「最初は強い確信がなく，実を言うとアロン神権を受けるときも不安でした」と，彼は言います。

その後，彼は数冊の教会歴史の本を読み，確信を深めました。「家，故国，ときには家族さえも捨てて，見知らぬ荒れ野に出て行った初期の開拓者たちの記事を読んで，真実でないことのためにこんなに多くの犠牲は払えないだろうと思いました。」

モルモン経を読んだときも，証を強めました。今では彼はたくさんの祝福を受けています。神に仕える決心をしたときに結婚した帰還宣教師の妻も，その祝福のひとつだと言います。「神は助けてくださいます。ここハイチでも，それは変わりません。ですが，世界中の会員の皆さんにもお願いしたいのは，『再出発する』ハイチの人々のために祈ってほしいということです。私たちは皆さんの祈りを必要としています。」彼はそう語ります。

「再出発」という言葉は，ハイチの教会員の間ではよく聞かれます。ジョセフ兄弟は次のように語ります。

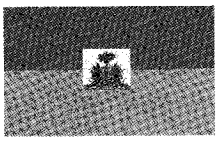
「私の人生は，教会を見付けたときに始まったのです。正直なところ，私が教会に入ったときは，前年に父母が亡くなっていたことも含めて，たくさん問題がありました。しかし，私は真理を見付けたことを悟り，それを実行してみようと決心しました。神の王国を第一に置いた生活を始めると，伝道，教育，仕事などの新しい生活が間もなく開けてきました。ほかの人々も，同じように福音によって生活を変えることができるのです。

私はハイチ以外の国に行く機会もありました。しかし，ここハイチが自分のいるべき場所だと考えています。」

山地の多いハイチでは「山また山」という言葉を，景観についてだけでなく，自分たちの抱える問題に対しても使います。彼はそのような国で，人生最大のチャレンジと取り組んでいることを理解しています。それでもなお，ハイチの末日聖徒たちは登り続けています。そして，一足ごとに希望を見いだしているのです。□

＊ジェド・バンデンバーク，エリザベス・バンデンバーク夫妻：ソルトレークホラデーステーキ部ホラデー第1ワード部所属。

ハイチにおける教会の始まり
——たったひとりの教会員



「罪の赦しを受けるためにバプテスマを受けたいと思います」と書かれた，ハイチの首都ポルトープランス市の消印のある手紙が，合衆国フロリダ州にあるフォートローダーデール伝道部に舞い込みました。差し出し人は，アレキサンドレ・ムーラという名のハイチの著名な実業家です。彼の真理の探求が終わりに近づいていたのです。リチャード・L・ミレット伝道部長はこれを読んで，フランス語版と英語版の2冊のモルモン経を送りました。

チリのサンチアゴで，ユダヤ系アラビア人を先祖に持つ両親のもとに生まれたアレキサンドレは，幼少のころハイチに連れてこられ，青年時代まで家族とハイチにとどまりました。その後，ベツレヘムに移り，そこで父親は亡くなりました。第二次世界大戦のときイギリス軍に従軍してレバノンへ行き，その後結婚して子供をもうけ，ハイチに戻ってきました。彼は行く先々で，神と人生に関する真理を探し求めました。自分が求めているものに出会えるように，何年も祈り続けました。ポルトープランス市にある仕事場の2階の部屋に戻ってからも，答えを見いだせるように毎日祈り続けました。

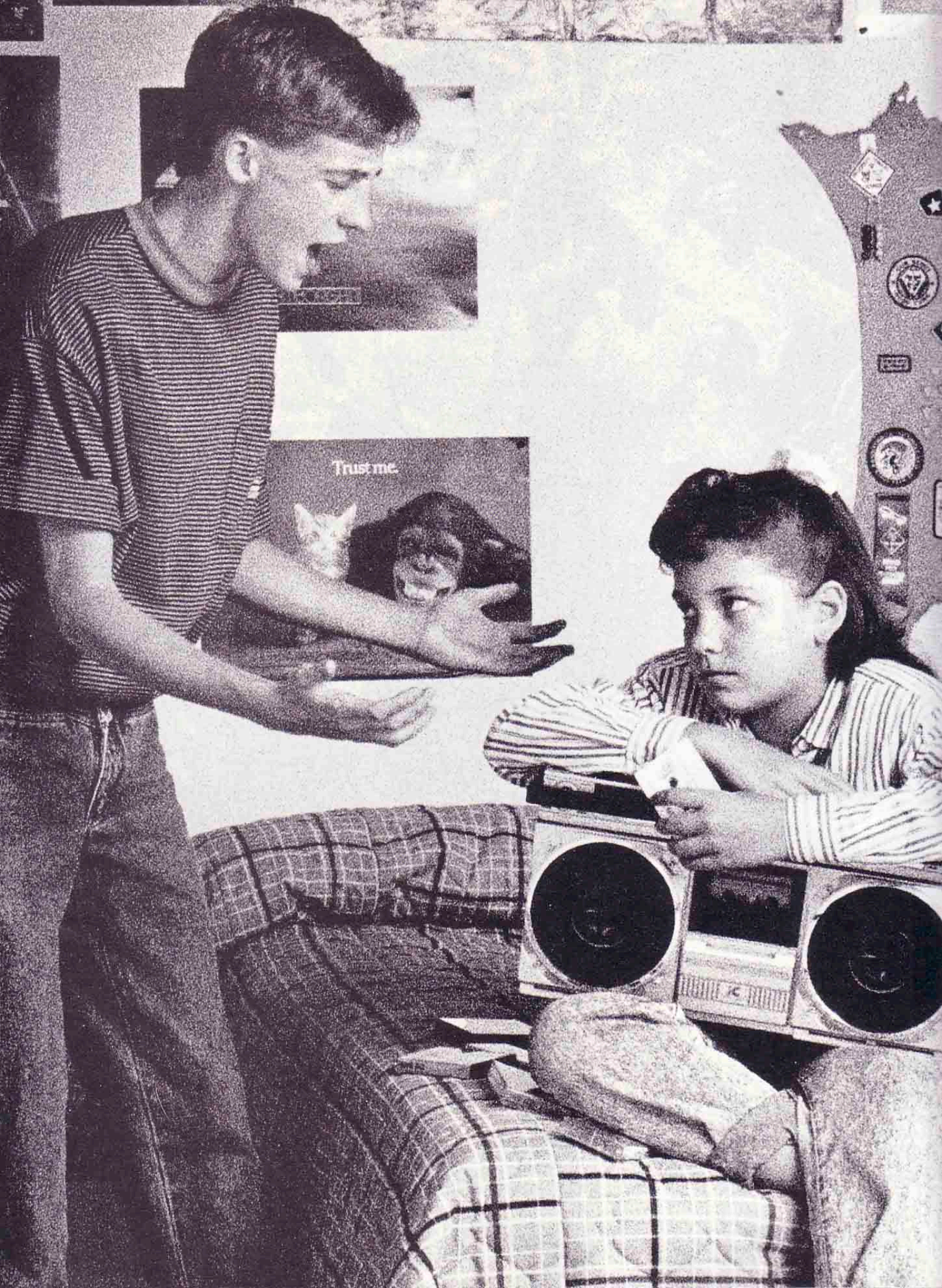
1977年，アレキサンドレは祈り終わって店に戻り，妻に言いました。「私は店を移る必要がある。」こうして彼はいとこの店に落ち着きました。そこでは，いとこの奥さんが，合衆国のマイアミで末日聖徒の宣教師からもらったモルモン経を読んでいました。彼女はモルモン経をアレキサンドレにどうしても貸さなかったので，彼はジョセフ・スミスの証のパンフレットを借りました。彼はすぐさまそれを読み，フロリダ・フォートローダーデール伝道部に手紙を書き，モルモン経を求めました。モルモン経が着くと，彼はフランス語版のモルモン経を徹夜で読み，長年の探求が終わったことを悟りました。1977年7月，アレキサンドレはフォートローダーデールへ飛行機で行き，そこでバプテスマを受け，祭司に聖任されたときは，58歳になっていました。

これが，ハイチにおける末日聖徒イエス・キリスト教会の始まりでした。宗教に対する見識と誠実な人柄で多くの人に尊敬されていたムーラ兄弟は，大勢の人々に教会について話しました。しかし，1978年7月までハイチの教会員は彼ひとりでした。その年の6月8日，ミレット伝道部長がフロリダから電話で，すべてのふさわしい男性会員は神権を受けることができるというニュースを，アレキサンドレに伝えてきました。人口の98パーセントが黒人というハイチの人々にとって，この知らせはきわめて重要なものでした。「バプテスマの準備ができている人は大勢います。いつこちらへ来てくださいますか」と，ムーラ兄弟はこの電話に答えました。

7月2日，ミレット伝道部長とふたりの副伝道部長はポルトープランス市の北側にある小さな町，ハテマレーを流れる川の岸辺で，特別なバプテスマ会を開きました。このとき22人のハイチ人が教会員となりました。1978年9月，J・フレデリック・テンプルマン兄弟が妻と4人の子供を連れて，カナダ大使館の第一書記官としてハイチに着任しました。彼とムーラ兄弟は共にハイチにおける最初の支部を開設するために熱心に働き，ついに1980年10月，ポルトープランスに初めての支部が誕生したのです。

このときはすでに，フロリダ州のフォートローダーデール伝道部から4人の専任宣教師がハイチに来て，伝道していました。1983年4月17日まで，ハイチはフロリダ伝道部の管轄下にありました。この日，当時十二使徒定員会会員のトーマス・S・モンソン長老が福音を宣べ伝える地として，ハイチを奉献しました。これまでに約100人のハイチ人が，自国で宣教師として伝道してきました。そしてなお多くの若者が伝道に出ることを切望しているのです。□

前列左　アレキサンドレ・ムーラ兄弟は，自分のバプテスマの1年後，福音を伝えた23名の人にバプテスマを施した。これが，ハイチで行なわれた最初のバプテスマになった。


Trust me

怒りの気持ちを抑えるには

私は腹を立てると自分を抑えることができません。抑えようと努力をするのですが，ほかの人があまりに腹立たしいことをするので，ついかっとなってしまうのです。これはどうにもしようがないことのように思えます。それなりの理由があっても，腹を立てることは本当に悪いことなのでしょうか。もしそうなら，どうしたら抑えることができるでしょうか。

本誌の答えは問題解決の一助として与えられたものであり，教会の教義を公式に宣言するものではありません。

回答

この世の中には腹が立つことがたくさんあります。あなたは，この地球上で何十億もの人々と一緒に住んでいるのです。そして，どの人もそれぞれ数え切れないほど多くの迷惑な行動をすることがあります。それは人としてありがちなことです。幸いなことに，あなたはその99.99パーセントの人とはまったくかかわらずに済んでいるのです。けれども残念なことに，残りの0.01パーセントといえどもかなり多くの人が，家庭や学校，隣近所でときとしてあなたを怒らせるような行動をするのです。

怒りの感情は生まれながらのものではなく，成長するにつれて身に付いていくものです。怒りの感情をとどめるには，自分を抑える必要があります。ほかの人の行動に逐一腹を立てるならば，あなたはほかの人に支配されていることになります。それでは，あなたの自由意志はどこにあると言えるでしょうか。

すぐにかっとなる人は，ニトログリセリンの入った瓶のようなものです。皆怖がって，できるだけ近づかないでおこうとします。やむを得ないときにはその周りをそっと歩きます。そのような行ないを続けていては，言うまでもなく，友情や温かく信頼に満ちた家族関係を築くことはできません。

怒りを抑えられない人は，ともすると神を冒瀆(ぼうとく)したり，暴力を振るったり，相手の心や体を傷つけたりします。その結果，みたまの賜の恵みにあずかることができなくなります。

怒りは正当化できるでしょうか。聖典には，確かに神が邪悪な行為や悔い改めない罪人に対して怒りを注がれると記されています。しかし，神の怒りはついかっとなるというたぐいのものでは決してありません。

また，私たちは罪を憎まなくてはなりません。たとえば，不法な薬物の売買や幼児の虐待といった行為に対して，感情に左右されることなく，理にかなった怒りを感じるのは当然のことです。しかし，ほかの人が何か愚かな行為をするたびに腹を立てるのは，情欲や貪(どん)欲(よく)と同様，好ましくない感情と言えるでしょう。霊的な進歩を図ろうとするならば，そうした感情は克服しなくてはなりません。

では，どのようにしたら自分を抑えることができるでしょうか。いくつか提案してみたいと思います。

1．とにかく冷静になる。どのようなことであるにせよ，無視してください。腹を立てるほどのことではありません。

2．心の準備をしておく。朝起きる前や車の運転を始める前，あるいは学校へ行く前に，腹を立てまいと決心するのです。腹を立てそうな場面を想像し，冷静に行動する自分の姿を思い描いてください。

3．自分自身の行動を反省する。あなたも人間ですから，ときには愚かな行為をしてほかの人をいらだたせることもあるでしょう。自分の過ちを赦(ゆる)してもらいたいと思うように，他人の過ちに対しても寛容になってください。

4．ユーモアのセンスを磨く。自分に対しても，また他人の愚かな過ちに対しても，「小さなことさ」と笑って済ませるように努めてください。実際，相手がわざと粗野な，あるいは軽率な行為をするように見えるときにさえ，ユーモアの精神は身を守るための特効薬になってくれます。

5．まず，みたまの力によって平安と愛を求め，断食し，赦す。赦しの精

神を持つと，たやすく腹を立てないようになります。日々祈り，いつも祈りの精神を忘れないようにしてください。聖典を読み，みたまを伴侶（ともも）とするためにすべきであると教えられたそのほかの事柄をすべて行なってください。

最後に，もうひとつ付け加えましょう。ここまでは，いわゆる「かっとなる」という程度の怒りについて話してきました。けれども，他人の犯した罪悪や，私たちや愛する者たちになされたゆゆしい過ちのために生じる，もっと深く容易に忘れ去ることのできない怒りもあります。そのような怒りを感じたときには，必ず両親や監督などの信頼できる大人の援助を求めてください。

青少年の意見

あなたの悩みはよくわかります。怒りというのは本当に妙なものです。私たちはときどき感情に押し流されてしまうことがありますが，それは恥ずかしいことですね。だれでも皆克服すべき短所がありますが，それはより良い人間になるためにあるのです。私にとって役に立ったいくつかの提案を述べたいと思います。(1)反射的に行動しない。数を10数えて，自制心を失う前にその場を離れる。あるいは，深呼吸をする。(2)怒りを分析する。どのような原因で，どのようにして生じたか，どうしたら避けることができるかよく考える。(3)ひとりになれる場所へ行き，ひざまずいてすべてを天父に話す。(4)主に助けを求める。あなたの心から怒りを取り除き，その代わりに平安と赦しの気持ちが得られるように祈る。主はイテル書12章27節の中で，もし私たちが主のみ前にへりくだるならば，「その弱きを強きに変えん」と約束されています。

アラバマ州バーミンガム
トーマス・F・スミス長老(19歳)

怒りは，だれもがときどきは抱く感情です。ただ，怒りを抑えることができる人もいれば，そうでない人もいるという違いがあります。怒りっぽい人は，自分で自分を抑えられず，サタンに支配されていることになります。

私の場合は，かんしゃくを起こしている人がどんな顔をしているかを知るために，意識して観察した経験が役立ちました。いかに愚かな顔をしているかを見て以来，自制心を身に付け，短気を起こすまいと決心したのです。今，忍耐することを学んでいるところです。

ネバダ州
ラブロック
カーチス・ハイド
(19歳)

腹を立てて行動すれば，人を傷つけることがあります。怒鳴ったり，物を投げたりせずに，一呼吸おいて何が問題なのか考える必要があります。自分は行き過ぎた行動をしなかったでしょうか。相手のコンディションはいつもどおりだったでしょうか。気分や具合が悪かったのではないでしょうか。自分も機嫌が悪かったのではないでしょうか。いつまでも怒っているのは良いことではありません。一番良いのは，相手と話し合い，赦し，そして忘れることです。

ニューヨーク州ロチェスター
ビッキー・M・ブルーガー(14歳)

私もひどく短気なたちです。ささいなことでイライラすることがよくありました。あんまりひどいときには，ただだれかと体が触れただけで怒鳴ったこともあります。最も悪いことには，その相手が大抵私の家族だったのです。そんなとき，私はビタミン不足がイライラの原因になるということを知りました。また，人を愛することを学ぶ必要があると気付きました。救い主は，すべての人を愛されました。ご自分を裏切った人にまで愛を示されたのです。

弟にイライラして，け飛ばしたくなることさえあります。でも天のお父様に，弟が私にやさしくするようにではなく，私が弟にやさしくできるように助けてくださいと頼みました。すると，本当にそうできるようになったのです。弟が私を怒らせるようなことをしなくなっただけでなく，私自身あまり気にならなくなったのです。

カリフォルニア州サニーベール
シーラ・ウェッブ(17歳)

私も同じ悩みを持っていましたが，だんだん乗り越えることができるようになりました。ときどきかんしゃくを起こして人に腹を立てることもありますが，後で謝るようにしています。あなたも必ず自分を抑えることができるようになると思います。それまでは，よく祈り，相手をどんなに傷つけているかについて考えるようにしてください。

アラバマ州
ジェニーバ
タミー・ブース
(14歳)

私たちは皆，あれやこれやといろいろな理由で怒ります。それはごく普通のことですが，人に対して怒っても，何の解決にもなりません。ただ状況を悪化させるだけです。自分の気持ちを抑え切れなくなる前に考えましょう。考えない人は愚かな行為をするものです。中には，あなたを怒らせようとする人もいます。そのような人には，逆に親切に振る舞って，肩透かしをくわせるのです。何か言う前に，1から10までを繰り返し数えて心を落ち着けるとよいと思います。軽率な行動は慎みましょう。

時がたてば自制心が身に付き，忍耐について多くのことを学べるでしょう。「柔らかい答は憤りをとどめ，激しい言葉は怒りをひきおこす。」(箴言15：1)

ユタ州
サンディー
トーニャ・
ストック
(20歳)

私にはいら立ちにうまく対処できなくて失敗した経験があります。1年前，あまりに腹が立ったので，とうとうこぶしで壁を殴りつけ，骨折してしまいました。ギブスがはずれてから2カ月後，同じ手をまた別の壁にぶつけて骨折する羽目になってしまったのです。そうした私の未熟な行為のために，家族や友人からの尊敬という大切なものを失ってしまったのです。

腹が立っても，人や物に八つ当たりしてはいけません。気持ちを落ち着けてください。決してこの世が終わったわけではないのです。イエス・キリストが神の宮居で物売りの台をひっくり返したときのような義憤をあなたが感じることはめったにないでしょう。人人はあなたが欲求不満に対してどのように反応するかによって，あなたの人柄を判断します。すぐにかんしゃくを起こす人を好む人がいるでしょうか。自制心は，主の永遠の計画の中で進歩するために必要なものです。

ワシントン州ベリンガム
マックス・ブーハー(16歳)

そういう怒りの気持ちを乗り越えるにはいろいろと良い方法があります。私は，「なぜ怒っているのかについて話す」という方法が好きです。そのための一番良いやり方は，自分自身かまたはよい友達に問題を話すことです。ひとりでいるときには，散歩をしたり，自転車に乗ったりします。ひとりで過ごすことによって，なぜ私はそんなに怒っているのかをよく考え，自問できます。こうするといつも気持ちが楽になり，心が落ち着きます。それから問題に取り組むと，怒りの気持ちのためにわからなかったことが一層はっきりと見えてくるのです。

もうひとつの方法は，友達に話すことです。そして最もよく私の話に耳を傾け，最上のアドバイスをしてくれるのは，私たちの天父です。

アイダホ州レックスバーグ
レティーシャ・ドナフー(20歳)

私たちは皆，ときどき人を怒らせるようなことをしてしまいます。今度だれかがあなたを怒らせたら，ただ気を落ち着けて気にしないようにしましょう。だれでも皆愚かなことを言うものです。

コロラド州デンバー
チャッド・フィッシャー(14歳)

私も短気なために，随分多くの問題を起こしてきました。相手がとても愚かに思えてよく怒鳴り散らしたものです。すぐにかんしゃくを起こしてしまうのです。それを乗り越えるために，モルモン経を読んだり，自分の気持ちを紙に書いたりして変わろうと意識的に努力しました。1週間もすると，それほど腹を立てなくなっていました。

インディアナ州
インディアナポリス
ジョン・
O・レイヤー長老
(19歳)

皆さんも下記の質問に答えて，この質疑応答を有益なものにしてください。1992年1月1日までに，回答を郵送してください。あて先は次のとおりです。

QUESTIONS AND ANSWERS
International Magazines
50 East North Temple
Salt Lake City, Utah, 84150, U. S. A.

氏名，年齢，住所，所属ステーキ部，ワード部名を明記してください。母国語で書いても構いません。こちらで翻訳いたします。手書きでもタイプでも結構です。できれば写真を同封してください。ただし返却はいたしません。回答が非常に個人的なものである場合には匿名にすることもできます。また，すべての回答が採用されるとは限りませんのでご了承ください。

質問——聖典は，私にはつまらないものに思えます。どこがそんなに大切なのかわかりません。聖典をもっと楽しみ，生活の中でもっと意味のあるものとするにはどうしたらよいでしょうか。

救い主を中心とした生活

人はだれでも何らかの優先順位に従っています。時間や精力，そのほか自分が利用できるものをどう使うか決めるときにはそれが指針となります。たとえば，教育を重んじる家庭では，子供たちの学力を伸ばすことに資力を用い，努力を払うでしょう。

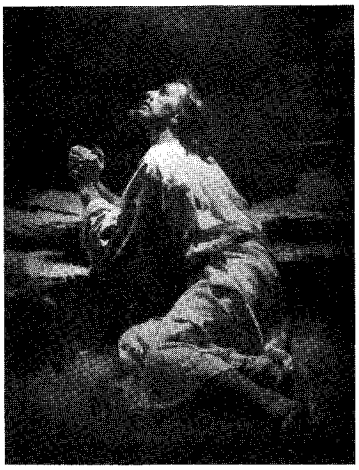
時間をどのように使っているか注意深く観察すれば，自分がどのような優先順位に従っているかが明らかになります。一例を挙げると，教会員であれば，聖典の勉強は生活の中で最優先すべき事柄と考えるでしょう。ところが実際は聖典の勉強よりもテレビを見ることに多くの時間を割いていたりします。

時間や精力，そのほか自分が利用できるものをどのように使っているか考えてみましょう。それによると，あなたは何を一番大切にしているでしょうか。

救い主に心を向ける

すべての末日聖徒の女性はそれぞれ異なった境遇に置かれています。そうしたすべての環境に共通していて，しかも一番大切にしなければならない事柄があるとしたら，一体何でしょうか。ユタ州オレムに住むシドニー・スミス・レイノルズ姉妹は次のように記しています。「末日聖徒の女性が最も心を向けなければならないのは次の点です。私はイエスがキリストであり，文字どおり神の御子であることを知っているだろうか。生ける予言者の言葉を信じ，それに従っているだろうか。日常生活のチャレンジに私はどう取り組んでいるだろうか。私はいつも主を，人々を，自分自身を喜ばせようとしているだろうか。」（『母親に託された使命――子供に正しい価値観を植え付けるには』「エンサイン」1984年3月号，p.22）

人々や自分を喜ばせる以上に，主を喜ばせることにもっと心を向けたら，あなたの生活はどう変わるでしょうか。



PAINTING BY HARRY ANDERSON; COURTESY PACIFIC PRESS

日々，救い主を最優先する

デンマークに住むメッティー・ハンセン・ロー姉妹は植字業を営みながら家族の生活を支えていました。仕事が減って注文が途絶えると，彼女は母親や娘と一緒に断食し，仕事が与えられるように祈りました。翌日，彼女は新しい客を得て，分厚い出版原稿を手にすることができました。

ところがなぜか，その仕事をスムーズに進めることができません。電算機が正常に動いてくれないのです。彼女がその出版原稿を取り上げると，自分の手がまるで汚れているような異様な感じがするのでした。

彼女はどうしてよいかわからなくなって，助けを祈り求めました。すると，依頼された原稿を最後のページから読むようにみたまのささやきを感じました。この原稿はデンマーク全域の大学で使用される教科書となる予定のものでしたが，彼女は最後から2ページ目に，「これまで読んだこともないような，イエス・キリストを冒瀆（ぼうとく）する言葉」を見付けたのです。

心の中の声が彼女にこう告げました。「メッティー，これを植字してはいけない。そうすればキリストを裏切ることになる。」ところが別の声がこうささやきます。「あなたが植字しなくても，いずれは印刷されるのよ。この仕事をすれば，来月の支払いが楽になるわ。」

彼女は力を求めて祈り，印刷業者に自分の気持ちを説明して，原稿を返却しました。何日かたって，彼女は半年分にも等しい十分な仕事を手に入れた上，原稿を返却した印刷業者は彼女の上得意の顧客になったのでした。（『まず什分の一を納めなさい』「聖徒の道」1986年5月号，pp.10―11参照）

日々の生活の中で救い主に心を向けるにはどのような方法があるでしょうか。

より充実した，豊かな生活

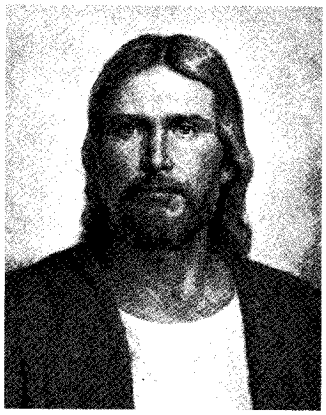
主を第一にすれば，いつもそのように明らかな物質的祝福が得られるというわけではありません。しかし，救い主を中心とした生活を築くなら，必ず祝福されます。

たとえば，多忙を極めるある家族がいます。何度も失敗を繰り返した後で，もう一度決心して，早朝に家族で聖典を読む習慣を確立しようと努力しました。なかなかむずかしいことですが，この家族の母親は次のように証しています。「一緒に聖典を読むことで，家族のきずながこれまで以上に親密になりました。家族の中にかつてなかったような愛と一致の精神が宿るようになったのです。」

救い主を最優先させることで，あなたはどのような祝福を受けているでしょうか。□

八福の教え
救い主に近づくための道

山上の垂訓の中にあるこの教えは，
救い主の神性を証し，
どのように主に従うべきかを教えてくれます。



S・マイケル・ウィルコックス

復活されたキリストが，暗黒の霧を貫いてニーファイ人に語り掛けられたとき，テーマは，「われに来たれ」でした。(IIIニーファイ9：13—14，20，22参照)そして，主が彼らの前にみ姿を現わされたときの最初の戒めが，「われがイスラエルの神にして全世界の神なること……を知るために起ちてわれに近づけ」でした。(IIIニーファイ11：14)ひとり，またひとりと，群衆は世の救い主のみもとに集まっていきました。

私たちは，そのすばらしい場に直接居合わせる特権にはあずかれませんでしたが，そのときの「われに来たれ」という招きは，古代のニーファイの民と同様に，私たちにとっても現実のものです。旧世界の山上の垂訓(マタイ5—7参照)に似た教えの中で，イエスは古代のニーファイ人に，そして私たちに，どのようにしてご自分のもとに来ることができるかを教えられました。通常「八福の教え」と呼ばれるこの原則は，私たちが救い主の神性について力強い証を持てるように，導いてくれます。

PAINTING BY DEL PARSON

教会の指導者に従う

復活された救い主がニーファイの民に教えられた最初の原則は，主の選ばれた使徒に従うことでした。「もし汝ら，われが汝らの中より選び出して汝らを教え導く者とし，汝らの僕となしたるこの十二人の者の言葉に聞き従うならばさいわいなり。」(IIIニーファイ12：1)

私が執事だったころ，十二使徒定員会補助のウィリアム・J・クリッチローJr.長老が，私たちのステーキ部大会で話をするために来られると母から聞かされました。大会当日，私たちは遅く着いたために，後ろの方の席に座らなければなりませんでした。説教壇からあまりにも離れていたので，クリッチロー長老が話のために立ったときも私には姿が見えませんでした。母は私に，演壇のすぐ前までいすを運んで行って座るように言いました。クリッチロー長老の目には，12歳の男の子が通路の一番前に陣取って正面から自分を見詰めている姿は，奇妙に映ったに違いありません。

その日クリッチロー長老が話したことはほとんど覚えていませんが，彼が話しているときに聖霊が私を包み，「この人は神に仕える人です。信じてよい人です」とささやきました。集会後，クリッチロー長老は私のところに歩み寄り，肩に手を置きました。深い平安と幸福感が心にわき上がってきて，これが「さいわい」ということなのだと知ったのです。この少年のころの経験は，主に召された指導者に聞き従うなら，キリストのみもとで真の祝福にあずかるための道に導かれることを教えてくれました。主の僕たちに信頼を寄せて従い，キリストのみもとに来るとき，私たちの幸福はいかばかりでしょうか。

謙遜さとバプテスマ

救い主がニーファイ人に教えた第2の原則は，「……ひくくへりくだりてバプテスマを受くる者たちは火と聖霊とを授けられて罪の赦しを受くる故にまことにさいわいなり」(IIIニーファイ12：2)でした。

私たちはバプテスマを受けて聖餐にあずかり，主のみ名を受けるという誓

旧世界の山上の垂訓に似た教えの中で，
イエスは古代のニーファイ人に
どのようにしてご自身のみもとに来ることができるか教えられました。

約を主と交わすとき，キリストのみもとに来ます。

昔，ジョージ・アルバート・スミス大管長は重体に陥り，意識を失って，自分はもう死んでしまったんだと思ったことがありました。ふと見渡すと，美しい湖の近くに立っています。小道をたどってしばらく森の中を歩き回っていると，男の人を見掛けました。その人はスミス大管長の亡くなったおじいさんで，彼の方に近づいて来ました。

「祖父がやって来るのを見て，私はどれほどうれしかったでしょう。私は祖父の名をもらい，常にそれを誇りにしていたからです。祖父は私の1メートルほど前に来ると立ち止まり，……非常に真剣に私を見詰めてこう言いました。

『私はおまえが私の名を受け継いで何をしてきたか知りたいのだ。』

すると私が今までしてきたことが走馬灯のように目の前に現われては消えていきました。……私はほほえんで祖父を見上げこう言いました。

『私はあなたを辱めるようなことは何もしませんでした。』

すると祖父は歩み寄って私をしっかり抱きしめました。」(「インプルーブメント・エラ」1947年3月号，p.139)

いつの日か私たち一人一人は救い主のみ前に立ち，救い主の懐に抱かれたいと心から願うでしょう。私には救い主がこう問い掛けてこられるのが目に浮かびます。「バプテスマを受けたとき，あなたは私の名を身に受けたはずです。私の名を受けて何を行ないましたか。」私たちは日々励み，次のように答えられるように生活しなければなりません。「私は，あなたを辱めるようなことは何もしませんでした」と。

へりくだりたる者

バプテスマと聖霊の賜を受けることによってキリストのみもとに来ることを説明し，このふたつの基本的な原則について教えた後，キリストは聖霊を受ける者の祝福された状態について詳しく話されました。また，聖霊を受けるために謙遜さが大切であると繰り返し教えておられます。

「へりくだりたる心にてわれに来る者たちはその住むべき所天の王国なるが故にさいわいなり。」(IIIニーファイ12：3)自分の心の貧しさに気付かなくては，「ひくくへりくだりてバプテスマを受」けることはできません。そして私たちは，へりくだってバプテスマを受けた後に，主のみたまに満たされて「さいわい」な状態になるのです。(2節参照)

エズラ・タフト・ベンソン大管長は，「謙遜とは，自分が至高者の力に頼る存在であることに気付き，それを認めることである」と言っています。(「エズラ・タフト・ベンソンの教え」p.369)救い主と救い主が召された予言者たちは，この原則のよい模範です。イエスは言われました。「わたしは，自分からは何事もすることができない。ただ聞くままにさばくのである。そして，わたしのこのさばきは正しい。それは，わたし自身の考えでするのではなく，わたしをつかわされたかたの，み旨を求めているからである。」(ヨハネ5：30)

ブリガム・ヤングは，「人は主の力添えがなければ，無に等しい存在である」と言っています。(「説教集」5：343)モーセもまた，「さて……われ知る，人は物の数にもあらざるを。この事を嘗(かつ)てわれ考えたることもなかりき」(モーセ1：10)と独白しています。天父の心の大きさに比べて，私たちの心はまことに「貧しい」のです。

私自身について言えば，ベンジャミン王が教えたように，生涯神をたたえ神に仕えたとしてもまだ益にならない僕にすぎないことを考えるときに，最も謙遜になります。(モーサヤ2：20—21参照)私ができることのすべて，すなわち考え，行動する能力，そして呼吸する空気すらも，神からの賜なのです。もし，私が人生のすべてを神に仕えるために捧(ささ)げたとしても，単に神ご自身のものを神のみもとにお返ししているにすぎないのです。

あるクリスマスに，私へのプレゼントのために2ドル欲しいと息子に言われました。クリスマスの朝，息子は自分あてのたくさんのプレゼントには目もくれず，目を輝かせながら自分から

の私へのプレゼントを先に開けるように言うのです。開けてみると，それは事務所用の鉛筆立てで，空き瓶の周りに貝殻の形をした色鮮やかなマカロニが張り付けてありました。私からの2ドルは鉛筆と消しゴムを買うためでした。私は彼の無邪気さと愛をうれしく思いました。それから息子は自分のプレゼントの山へ突進したのでした。

父なる神から授かる豊かな賜，すなわち命そのもの，贖い，福音，予言者，聖典，神殿などに比べれば，私たちからの贈り物はマカロニで飾った空き瓶のようなものです。でも，それが私たちのできる最上のものであれば，天父は喜んで私たちの努力を受け入れてくださいます。神と私たちの違いを知ることによって一層謙遜になり，祝福が増し加わるのです。

悲しむ者

「すべて悲しむ者は慰めを受くべき故にさいわいなり。」(IIIニーファイ12：4)私は監督に召されてから，この聖句について深く理解できたように思います。監督はたくさんの涙を目にします。告白のときに流される罪悪感に苦しむ涙，愛する者の死を嘆く涙，自分だけが教会員であるために家族で受けられずにいる神殿の祝福を切望する涙，道をそれた子供たちを悲しむ親の涙，そして年老いた体の痛みに耐えかねて流す涙があります。監督にとってハンカチはなくてはならぬものだと悟りました。しかし，ほほの涙はぬぐえても，魂の悲しみはぬぐい去ることはできません。

私はヨハネの示現にある約束に慰めを見いだしました。「神自ら……人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。もはや，死もなく，悲しみも，叫びも，痛みもない。」(黙示21：3－4)

イエスは，「わたしは初めであり終わりである」と言われました。(欽定訳黙示1：8)イエスは悲しみや罪悪感に終わりをもたらし，苦痛や死，苦悩，罪，涙を終わらせてくださいます。主は喜びと命，平安の初めであり，癒しと真理，達成の初めでもあります。主こそは嘆きに終止符を打ち，慰めの端緒を開いてくださるお方なのです。

柔和なる者

「柔和なる者たちは地を受けつぐべき故にさいわいなり」(IIIニーファイ12：5)とイエスは言われました。モーセは，「その人となり柔和なこと，地上のすべての人にまさっていた」(民数12：3)と説明されています。しかしながら彼は大いなる力の人でもありました。イエスはご自身について，「わたしは柔和で心のへりくだった者である」(マタイ11：29)と語っておられますが，同時にイエスほどの力を持った人はほかにいませんでした。

教会のある指導者が巨大な水圧プレスを備えた施設を見学したときのことです。その機械は古い自動車を小さな金属の塊にすることのできる強力なものでした。機械の実演のためにガイドがその兄弟の腕時計を借りました。技師はその腕時計を機械にセットし，制御装置を調節すると，上の刃がものすごい勢いで降りてきて，時計から1ミリのところでピタリと止まりました。次に両側からプレスがごう音をたてて迫り，これも腕時計の文字盤の直前でピタリと停止しました。

指導者はその実演を大いに喜び，一緒にいた人たちにこう言いました。「今のは柔和についてのこれまでで最高の実演でした。柔和とはこのように完全に制御された偉大な力なのです。」

義を渇望する者

「すべて義を渇望する者は聖霊に満さるべき故にさいわいなり。」(IIIニーファイ12：6)渇望し，手に入れれば幸いがもたらされる義とは，どのようなものでしょうか。

リーハイとニーファイは示現の中で「人を幸福にするに足る」実(Iニーファイ8：10)をつけた生命の木を見ました。その実を形容する言葉の一つ一つ，つまり甘い，白い，好い，美しい，貴い，喜ばしいなどが比較の形で表現されています。たとえば，その実はただ単に甘いだけでなく，「今までに食べたどんな実よりもずっと甘く」その

「ひくくへりくだりてバプテスマを受くる者たちは
火と聖霊とを授けられて罪の赦しを受くる故にまことにさいわいなり。」
（Ⅲニーファイ12：2）

白さは「今までに見たこともないほど」白いもので，「どんな木の実よりもすぐれて好」く，「美しいことはたとえようもなくどんな美しさもかなわぬほど」でした。そして「あらゆるものに勝って貴」く，「心にとって最も喜ばしいもの」だったのです。（Ⅰニーファイ8：11—12，11：8—9，23）

弟子の幾人かが，みもとを去って行ったとき，イエスは十二使徒にこう尋ねられました。「あなたがたも去ろうとするのか。」

ペテロは答えてこう言いました。「主よ，わたしたちは，だれのところに行きましょう。永遠の命の言をもっているのはあなたです。」（ヨハネ6：67—68）

ペテロがそうであったように，私たちは，救い主が示された命の木と命の水ほど幸福をもたらすものはないと気付くとき，キリストのみもとに行くのです。

憐れみ深き者たち

「憐み深き者たちは憐みを受くべき故にさいわいなり。」（Ⅲニーファイ12：7）憐れみは赦しになくてはならない特質です。人を赦す人は自分自身の過ちをも赦してもらえるのです。自分の欠点に気付くなら人に憐れみを示しやすくなります。

ジェシー・W・クロスビーは，ある日ノーヴーで予言者ジョセフ・スミスのところにひとりの女性を伴って行ったときの経験を述べています。その女性はある人に虚疑のうわさを流されて困っていました。こう書かれています。「予言者はそんなとき，自分ならどのように処理するかを披れきした。敵対する人物が自分を中傷するうわさを始めたときは(実際そういうことが頻繁にあったのだが)，その人を裁く前に少し時間を取って，うわさの事件のあったと思われる時と場所を思い浮かべて，うわさのもとになるような言動をしなかったか思い巡らすのだという。もし思い当たることがあれば，心の中でその人をまず赦し，自分の気付かなかった欠点を知り得たことに感謝するのだと言った。そして予言者はその姉妹に，同じように記憶を注意深くたどって，彼女を悩ましているうわさのもとになることを無意識にでもしてはいなかったか思い起こしてみてほしいと言った。」

その姉妹は「少しの間じっと考え込んでいたが，それから思い当たることがあると告白した。そこで予言者は姉妹に，自分の評判と，彼女との友情を危うくしてまで彼女がよりよく自分を知ることができる機会を与えてくれたその兄弟を赦すようにと言った。姉妹は予言者の助言に感謝をして平安な心で帰って行った。」（「ファーン・コックス・アンダーソンの祖母マルサ・コックスの手記の中の物語」タイプ原稿，教会記録保管庫蔵）

もし，他人に落ち度があるときでも，内なる自分に目を向けるならば，人を赦し，憐れみの心を持てるようになります。そして，さらにキリストに似た者になれるのです。

心の清き者

「すべて心の清き者は神を見ることを得べき故にさいわいなり。」（Ⅲニーファイ12：8）聖典には神とまみえた事例がいくつか記されています。モーセは「その民神の面を見ることを得んために孜々として彼らを聖くせんことを努め」（教義と聖約84：23）ました。救い主は「その罪を捨ててわれに来り，わが名を呼び，わが声に従い，わが誡命を守るあらゆる人々は，わが面を見てわれ在るを知ることあらん」（教義と聖約93：1）と約束されました。同様に「誠心誠意〔神の〕光栄を顕さんとすれば，……汝ら神を見るの時あらん」（教義と聖約88：67—68）とも教えられています。神を見るほど清くなるには，従順さと聖さと誠心誠意神の栄光を真心をもって仰ぎ見ることが必要です。

聖典には，必要な心の清さに到達し，神や天使にまみえて共に語る機会を得た人々の例が数多く記されています。このすばらしい恩恵に浴したときの彼らの態度は，清さについてのよい模範と言えましょう。

ダマスコへの道で，パウロはこう言いました。「私に何をお望みですか。」(欽定訳使徒９：６)少年サムエルはエリに教えられたように「しもべは聞きます。お話しください」と答えました。(サムエル上３：10)ニーファイは言いました。「私は……行って行う」(Ｉニーファイ３：７)，「従わなくてはならない。」(IIニーファイ33：15)また，マリヤはこう言いました。「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。」(ルカ１：38)

これらすべての応答に共通するものは，従順な態度と動機の清さ，そして主のみ旨に添いたいと願う思いです。主のみ旨と栄光を真心をもって仰ぎ見たのです。

和解を望む者

「すべて和解を求むる者は神の子と呼ばるべき故にさいわいなり。」(IIIニーファイ12：９)どうしたら和解を求める者になれるかを理解するには，何が平和をもたらすのかを知らなければなりません。パウロは，「御霊(みたま)の実は，愛，喜び，平和，寛容，慈愛，善意，忠実」(ガラテヤ５：22)であると説明しています。主のみたまがあるところに平和があるのです。和解を望む者はみたまを招き入れる者であり，みたまが平和をもたらすのです。

ヒーバー・Ｊ・グラント大管長は商売上のことで争っていたふたりの兄弟の話をしたことがありました。この兄弟たちはジョン・テイラー大管長のところへ来て，争いの決着をつけてくれるように頼みました。テイラー大管長は了解したのですが，こう言いました。

「『お話をお聞きする前に，おふたりのためにシオンの賛美歌をひとつぜひ歌わせてください。』

テイラー大管長は歌が大変上手で，心を込めて賛美歌を歌う人でした。ふたりのために１曲歌い終わると，彼らが多少心を動かされたのを見て，もう１曲歌わせてほしいと頼みました。ふたりはもちろん承知しましたが，この機会を喜んでいるように見えました。

テイラー大管長はそれから３曲，４曲と歌い続け，歌い終わったときにそのふたりの兄弟は涙に暮れて立ち上がり，互いに握手して，大管長の貴重な時間を取ってしまったことをわびました。そして大管長に争いの詳細を何も話すことなく帰って行きました。」(「インプルーブメント・エラ」1940年５月号，p.522)

この原則は夫婦や家族，そのほかの人間関係にも応用できます。平和の究極の源は御父と御子です。主のみたまを自らの生活や家庭に招く人は平和をもたらす人です。そして主の救いの計画を互いに教え合い，世の人々に教えるとき，私たちは和解を望む者となり，「平和を起(おこ)し，その民を贖いその民を救いたもうた主」の子となるのです。(モーサヤ15：18)

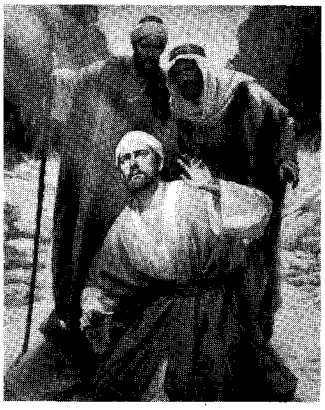
迫害を受くる者

「すべてわが名のために迫害を受くる者はその住むべき所天の王国なるが故にさいわいなり。」(IIIニーファイ12：10)迫害を受けてどうして幸せを感じられるのか理解に苦しむかもしれません。古今の予言者たちのように，迫害に遭うことによって「さいわい」が得られるのかもしれません。たとえばジョセフ・スミスは，迫害が彼に及ぼした影響について次のように語っています。

「私は高い山から転がり落ちる，ゴツゴツした岩のようなものである。私が丸みを帯びていくとすれば，何かほかのものと接触して角をとっていくしかない。それは例えば宗教上の偏見，聖職者の策略，弁護士や学者の術策，虚偽を流す編集者，買収された判事や陪審員，それに暴徒や神を冒瀆(ぼうとく)する者，不品行な堕落した男女に後押しされて偽証する行政官に出会うときなどである。地獄が束になってそこかしこの角を打ちたたく。このようにして私は全能者の矢筒の中の，とぎすまされ，角が取れた矢となるのである。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.304)

ジョセフ・スミスは，妨害や迫害が人を精錬することを知っていました。ヤコブは「信仰がためされることによって，忍耐が生み出される」と書いています。(ヤコブ１：３)すべてのことは私たちにとって経験になるという自

従順と清さを示し，パウロは主に尋ねました。
「私に何をお望みですか。」
（欽定訳使徒９：６）



覚があれば，忍耐が可能になります。（教義と聖約122：７参照）そうすれば，心をキリストに向けることができるのです。

世の光

キリストが教えられた生き方をすれば，人々の光となれる可能性があります。「われは汝らをこの民の光となす」とイエスは約束されました。（IIIニーファイ12：14）世の人々は私たちの良い行ないそのものだけでなく，そのような行ないがもたらす喜び，すなわち主の教えられたように生きることにより得られる祝福を，目にする必要があります。そうすれば彼らもまた，キリストのみもとに行くことにより，同様の祝福と喜びが得られることを理解できるに違いありません。

へりくだりたる心

ニーファイ人に対する八福の教えの終わりに当たって，イエスはみもとに来るようにと繰り返し呼び掛けられました。「われは汝らがわれを信じ，自分の罪を悔い改め，また真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以てわれに来れと言う御父の律法と命令とを今汝らに伝え〔る〕」と記されています。（IIIニーファイ12：19）

「へりくだりたる心」（“broken” heart）とはどのような意味か私自身何度も考えたことがあります。私が小さかったころ，おじが野性の馬を調教する手伝いをさせてくれました。私たちは馬に縄をかけ，頭に丈夫な革のはづなを付け，さらにこれもまた丈夫なロープをそれにつなぎました。それからそのロープのもう一方の端を地面に深々と打ち込んである木の杭に固定しました。若駒たちはもちろんロープを嫌がり，地面に足を踏んばってあらん限りの力で何日となく抵抗し続けました。しかし抵抗すればするほど苦痛は増すばかりです。やがて馬はロープを受け入れ，私たちは徐々に近づいて調教できるようになりました。そして，開いたてのひらにロープを軽く置いたまま馬に背を向けて歩いても馬が後をついて行くようになったとき，おじは初めて「この馬は，馴れた（“broken”）」と宣言したものでした。

へりくだりたる心（broken heart）とは，従順な心，服従する心，そして救い主に向けられた心です。私たちへの愛ゆえに払われた救い主の犠牲を知りながら，主の導かれる道を歩むのをためらうことなどできるでしょうか。命のロープを主のみもとから引きちぎろうとするでしょうか。

ボイド・K・パッカー長老はかつてこう語りました。「私は主に祈り，このように申しあげました。『私の心は決まっています。私の身に望まれることは何なりと言ってくださいますように。私の心はあなたのものです。あなたが何をなさろうと私は構いません。もう私から取るものはありません。私自身をすべて，私の持てるものをすべて捧げているのですから。』」（「かくしてすべて互いに強め養い」p.272）

主のみもとに来る

初めて３歳の娘をソルトレークシティーのテンプルスクウェアに連れて行ったとき，キリストのみもとに来ることの意味を教えられました。訪問者センター北館の傾斜した通路を上がりながらイエスの像を見付けた娘は，握っていた私の手を離すと，私の顔を見詰めて形容しきれぬ愛と熱意の表情でこう言いました。「ああパパ！　イエス様よ！」そして，イエスに会うために全速力で駆けて行ったのです。

救い主ご自身がこう教えておられます。「悔い改めて幼児のごとくわれに来る者は，われことごとくこれを受け容るべし。かかる者はすでに神の王国に居る者と同じなればなり。見よ，われはかれらのために一度わが生命を捨てて，また生命を得たり。故に，世界の隅々に至る者たちよ。悔改めをなし，われに来りて救いを受けよ。」（IIIニーファイ９：22）□

＊Ｓ・マイケル・ウィルコックス：ユタ州ドレイパー北ステーキ部ドレイパー第10ワード部所属。ユタ大学隣設インスティテュート講師。

予言者に会う

ドナ・シン

韓国の原州(ウオンジュ)で行なわれる地方部大会に出席するために，教会の指導者が数名，車で一緒に出掛けたときのことです。当時夫は韓国ソウル伝道部の伝道部長を務めており，同行した私は，副伝道部長とたまたま隣に座り合わせました。その兄弟にどのようにしてイエス・キリストの福音に改宗したのかと尋ねると，彼は肩をすくめ，視線をそらし，きまり悪そうにもじもじしてこう言いました。「取り立ててお話するようなおもしろいものではありませんよ，シン姉妹。」けれども私がぜひと頼むと，金大倫(キムダユン)兄弟は彼の言う「取り立てて言うほどおもしろくない」改宗談を話してくれました。

少年のころ，金兄弟は韓国のどこにでも見掛けるごく普通の子供でした。鎮海(チンヘ)にあった家の近くには宣教師が住んでいて，長老たちの姿を見ればどこへでもついて歩き，遊びに行ってはおしゃべりやゲームを楽しんだり，お菓子をせがんだりしていました。いつも忍耐強く，親切な宣教師のことが好きになり，そのうち一緒に教会へ行くようになりました。12歳になると宣教師から福音を学び，バプテスマを受けました。その後も温かく愛に満ちた長老たちのおかげで，活発に教会に集うことができました。

金兄弟が14歳のとき，第１回の韓国地域総大会が首都ソウルで開かれることになりました。予言者スペンサー・W・キンボール大管長がアメリカからおいでになるのです。金兄弟は両親に，この大会に出席させてくれるように熱心に頼みました。金兄弟の両親は教会員ではなく，鎮海からソウルへ７時間もバスに乗る長旅を心配し，初めはなかなか許可してくれませんでした。しかし，ソウルにいる親戚(しんせき)の家に泊まることになり，とうとう両親は承諾してくれました。

大会の日を迎え，キンボール大管長や幹部たちのすばらしい言葉を聞いて金兄弟はとても感動しました。しかし会場の後ろの方に座っていたために，幹部たちの声は聞こえても姿はよく見えませんでした。こんなに近くにいながら，実際には遠くからしか見られないことにがっかりして，純粋な信仰を持ったこの少年は，いつの日にかキンボール大管長や幹部たちと間近に会うことができるようにと頭を下げて祈りました。

翌朝彼はバスに乗り，７時間の帰路に就きました。ある所で休憩のためにバスが停車したので，金兄弟はバスを降りて近くのカフェテリアへアイスクリームを買いに行きました。駐車場でふと見ると，バンパーに「家族は永遠に」と書いたステッカーが張ってあるアメリカ製の車が止めてありました。少年はアメリカ人の末日聖徒に会えるかもしれないと思い，アイスクリームをポトポト床に落としながらカフェテリアの中を歩き回りました。

突然，はっとしました。前日の祈りが聞き届けられたのです。しかも，何年も先ではなく，きょうかなえられたのです。すぐ向こうにキンボール大管長が立っておられます。これまで多くの宣教師と接してきた金兄弟は，自信に満ちた足取りでカフェテリアをすばやく横切り，手を差し出し，簡単な英語で言いました。「こんにちは。ぼくは金大倫兄弟です。モルモンです。」

どのような人にも自信を持たせるすべを知っておられたキンボール大管長は，熱意を込めて少年のベトベトした手を握りしめ，自分と一緒のテーブルに座るように勧めました。そしてハンカチを取り出し，少年の顔についたアイスクリームをほほえみながらふき，こう尋ねまし

金兄弟は韓国のどこにでも
見掛ける
ごく普通の子供でした。
宣教師の姿を見れば
どこへでもついて歩き，
遊びに行っては
おしゃべりやゲームを
楽しんだり，
お菓子をせがんだり
していました。

た。「あなたのご両親は末日聖徒ですか。」

「いいえ。」少年はちょっとうつむきながら答えました。

「それはいい。」大管長は即座にこう答えました。「ご両親を改宗してください。金兄弟，あなたの家はどこですか。」

「ソウルから7時間南東へ行った所にある鎮海です。昨日，大会に出席して，大管長のお話をうかがってきたところです。」

「そんなに遠くから来てくれるなんて，あなたの熱意をとても誇らしく思いますよ。さあ，一緒に来ている幹部たち，それに私の妻を紹介しましょう。」そう言って大管長は正式に金兄弟を彼らに紹介したのです。

間もなくバスが発車する時間になり，金兄弟は別れを告げなくてはなりませんでした。キンボール大管長は少年の手を取り，まっすぐに目を見詰めるとこう言いました。「金兄弟，韓国に主の王国を建てるために，あなたは教会にとって必要な人です。伝道に出てくれますか。神の王国を築く手助けをしてくれますか。」「はい。」金兄弟は熱意を込めて約束しました。するとキンボール大管長はこの少年の肩に腕を回し，抱き締めてこうささやきました。「すばらしい，本当にすばらしい。」

それから数年がたち，金兄弟は高校，大学の勉強に打ち込むようになりました。そして，時折教会を休みたくなる誘惑にかられたのですが，そんなときいつも彼の耳には，あのとき言われた「すばらしい，本当にすばらしい」という言葉が響いてきたのです。教会の大管長ご自身からあのような立派な称賛の言葉をいただいた祝福にふさわしくなりたいと心から望み，たとえ両親や仲間からやめるように言われても，忠実に教会に通い続けました。

大学生のころ，金兄弟がしばらく鎮海に帰省していると，高校時代の友達に会いました。彼はお酒を飲まなかった金兄弟をよくからかったものでしたが，そのときもこう言いました。「大学生にもなって，まだ教会へ行っているのかい。」

金兄弟は答えました。「そうだとも。一生やめるつもりはないよ。」

友人は大声で言いました。「まったくぼくにはわからんよ。そんなにいろいろな規則に縛られて，ちっとも楽しくないじゃないか。ぼくはそんなのごめんだよ。自由でいたいからね。」

金兄弟は家へ帰ってから，友人が会った途端に教会のことを口にしたという事実について深く考えました。翌日，昼食を一緒にとりながら，金兄弟はこう言いました。「何も押し付けるつもりはないんだけれど，ぼくの教会の宣教師に会ってみるのもおもしろいんじゃないかな。いい経験になると思うけどね。」

すると，思いがけず友人は答えました。「そうだね。今，ほかにやることも特にないしね。」こうして宣教師から福音を学び始めたのです。宣教師と会うたびに友人の生活態度が変わっていきました。たばこもアルコールもやめ，心から熱心に祈り，むさぼるようにモルモン経を読むようになりました。4回目のレッスンを受けるころまでには，とても強い関心を抱くようになり，妹を連れて来るまでになりました。それから程なくして，彼と3人の妹と父親がバプテスマを受けました。さらに，1年後，韓国大田（テジョン）伝道部へ伝道に出て，しかも伝道部長補佐にまでなったのです。これらはみな，金兄弟自身が伝

道の召しを受ける以前に起きたことです。

この間，金兄弟は7人の大学の友人を改宗する手助けをしました。

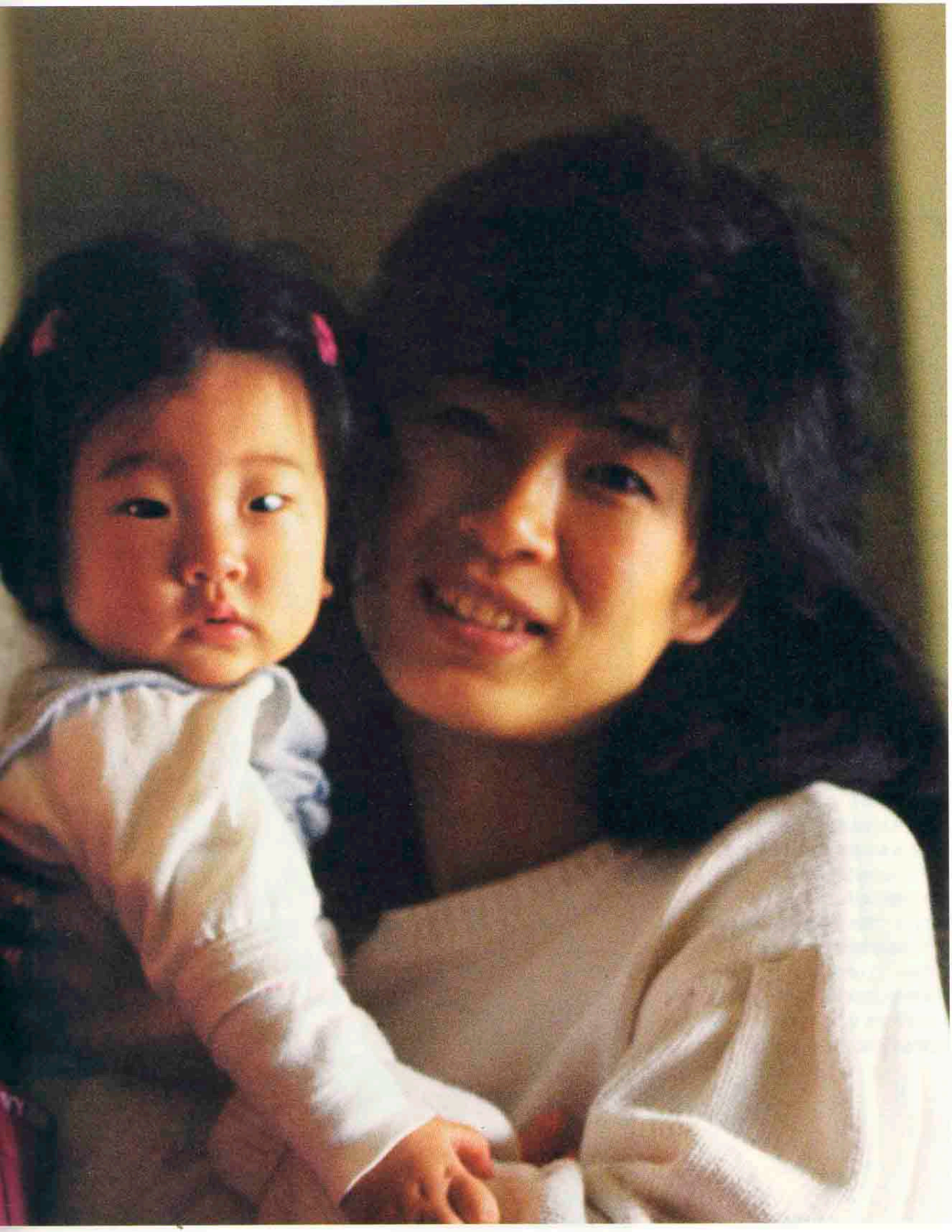
専任宣教師となってからは，多くの改宗者にバプテスマを施したうえ，韓国ソウル伝道部伝道部長補佐になりました。

伝道に出る前，金兄弟はソウル神殿の献堂式に出席し，そこで白珍馨（ハクジンヒヤン）姉妹に出会ったのです。やがて婚約すると，金兄弟は彼女に打ち明けました。「ぼくは伝道に出るとキンボール大管長に約束したんだ。」白姉妹はもうすでに伝道を終えていましたが，金兄弟が伝道に出ている間再び伝道の召しを受けることにしました。

金兄弟が伝道の召しを解任されてから10日後，ふたりはソウル神殿で結婚しました。今は義珍（ウイジン）という女の赤ちゃんがいます。金兄弟は後に，韓国江陵（カンヌン）地方部長を務めました。現在は家族と共にアメリカ合衆国に住み，動物栄養学の修士号を取得するために研究しています。博士号を取得して韓国へ戻り，大学で教える計画を立てています。

金兄弟は主に対する愛を証し，キンボール大管長と同じように主が彼を抱き締め，「すばらしい，本当にすばらしい」とささやいてくださる日が来るのを望んでいると語っています。□

＊ドナ・シン姉妹：前韓国ソウル伝道部長ポール・H・シン兄弟の妻。



PHOTOGRAPHY BY JED CLARK

信仰を形に

リチャード・G・オーマン

数年間にわたり，教会歴史美術博物館では，教会員による芸術作品はすべて「末日聖徒の芸術」として収集してきました。しかし，最近はその範囲を限定して考えるようになっています。現在私たちは，末日聖徒としてのテーマに関係のある作品を集めています。そのような作品のほとんどは，美術を通して自分たちの信仰を世の人々に伝えようとした末日聖徒たちによって，のびのびと創作されたものばかりです。

しかし，教会員の芸術家たちの中には，宗教的なテーマとは必ずしも関係のない，美しい作品を作る人たちがいます。私たちは，そのような人たちが作品の中で福音のテーマを描写するようにと奨励しています。個人的に奨励する場合もあれば，すべての末日聖徒の芸術家たちが福音の枠内で作品を作り，それを博物館主催の国際的な美術コンクールに出展するように奨励する場合もあります。

これまで集めてきた作品は，芸術という言葉に様々な表現形式があることを物語っています。福音のメッセージが世界中に広がり，様々な文化圏の人人が改宗するにつれ，芸術作品が織物，焼き物，絵画，宝石，縫い物，ししゅ

――末日聖徒の芸術

う，編み物など，様々な形をとることがわかるのです。

博物館に展示されている作品のほとんどは，民族芸術であり，それぞれの文化形態がよく表われた，生活の記録とも言えるでしょう。ここに挙げられている作品の数々は，真の末日聖徒の芸術のよい例です。教会には数多くの様々な文化が共存していますが，これらの作品は，私たちが救い主を信じるひとつの民であることを思い起こさせてくれます。さらに，政治や経済，技術の力などよりも信仰，誓約，そして価値ある働きこそが大切であることも教えてくれます。

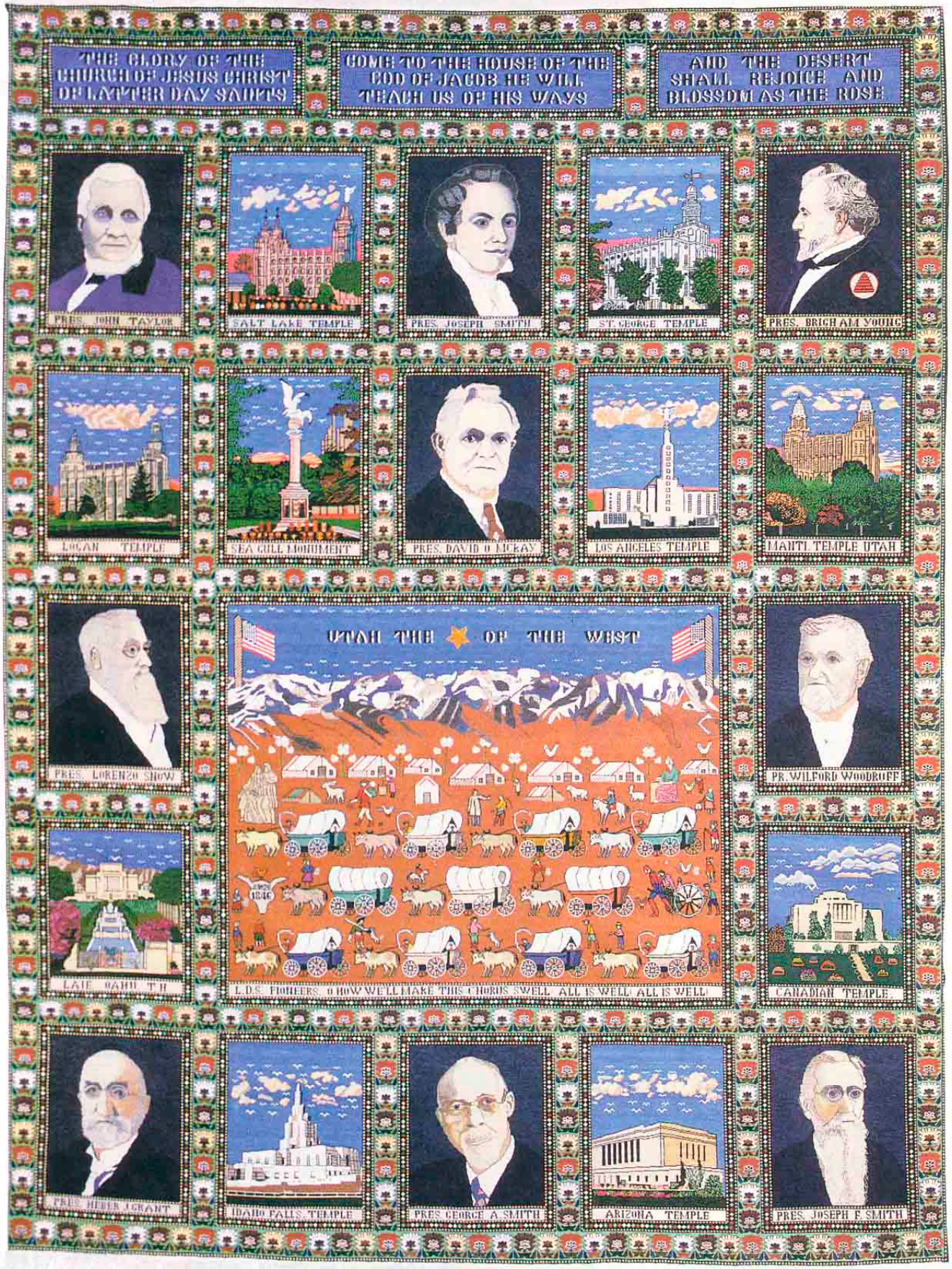
＊リチャード・G・オーマン兄弟：ユタ州ソルトレークシティーにある教会歴史美術博物館館長，ユタ州ミルクリーク東ステーキ部在住。

「最初の示現」
インドネシアのジャカルタに住む
ジョニ・スサント兄弟による，
長さ1メートルのろう染め
（染色技法の一種）。
3代目のろう染め師である
スサント兄弟は，
教会歴史美術博物館主催の
1991年国際美術コンクールに
出品するためにこの作品を作った。

右ページ――この高さ228センチの食器棚は，
1986年にユタ州ソルトレークシティーで，
スイス生まれの家具職人フレデリック・デートリッヒ兄弟によって作られ，
オーストリア出身のロザリンデ・リップ姉妹と息子のガーハート兄弟によって装飾が施された。
1830年代のオーストリア北部の様式に似せたその飾りは，
メルキゼデク神権の回復，宣教師，ソルトレーク神殿，バプテスマを表わしている。
リップ姉妹は祖国に戻り，民族芸術の分野において第一線で活躍している。

「歓迎の掛け板」ジョセフ・H・フィッシャー兄弟
(1856―1940。ユタ州メドー市)による多色材の浮彫細工。
この掛け板はオリジナルともメドーワード部の
説教壇に彫られている彫刻をもとに作ったものとも言われている。
はと，友情の握手を交わす手，バラの花などの象徴的な表現は，
皆が互いに愛し合い，砂漠が「薔薇(そうび)の如(ごと)く華(はな)さく」地となるよう
(教義と聖約49：24参照)，力を合わせる必要があることを
ワード部の会員たちに思い起こさせてくれます。

後に1918年から1945年まで
教会の大管長を務めた
ヒーバー・J・グラント長老は，
日本で最初の宣教師のひとりであった。
ソルトレークのテンプルスクウェアや
近郊のワサッチ山脈を，
日本の伝統的な扇に描いた，
この高さ30センチの七宝焼の花瓶は，
グラント大管長が
手に入れたものである。


THE GLORY OF THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER DAY SAINTS
COME TO THE HOUSE OF THE GOD OF JACOB HE WILL TEACH US OF HIS WAYS
AND THE DESERT SHALL REJOICE AND BLOSSOM AS THE ROSE
PRES. JOHN TAYLOR
SALT LAKE TEMPLE
PRES. JOSEPH SMITH
ST. GEORGE TEMPLE
PRES. BRIGHAM YOUNG
LOGAN TEMPLE
SEA GULL MONUMENT
PRES. DAVID O. MCKAY
LOS ANGELES TEMPLE
MANTI TEMPLE UTAH
PRES. LORENZO SNOW
UTAH THE ★ OF THE WEST
PR. WILFORD WOODRUFF
LAIE OAHU TE
L.D.S. PIONEERS. O HOW WE'LL MAKE THIS CHORUS SWELL ALL IS WELL! ALL IS WELL!
CANADIAN TEMPLE
PRES. HEBER J. GRANT
IDAHO FALLS TEMPLE
PRES. GEORGE A. SMITH
ARIZONA TEMPLE
PRES. JOSEPH F. SMITH

左ページ――ルーベル・オーゾニアン兄弟(1894―1974)と妻のメアリー(1908―1991)は
何代も続いたアルメニア織物師であり，
1950年代の初め，アメリカ合衆国へ移住するためのビザの交付を待つ間に
シリアのアレポでこのアルメニアじゅうたんを織り始め，1955年に完成した。
作品を創作していた時点までの教会のすべての歴代大管長と神殿を表わしている。182センチ×243センチ。

左――ナバホ・インディアンの陶器師の第一人者である
ニューメキシコ州ブルームフィールドに住む
ルーシー・マケレビー姉妹が1988年に作った高さ35センチのつぼ。
モルモン経の登場人物である
レーマン，レミュエル，ニーファイ，サームを描いている。
つぼの下の方のへびのようなものは，
プエブロインディアンたちに生き方を教えたという水へび，
あるいは白い神を表わしている。
この種の陶器はろくろを用いない手作りで，
鉱物や植物の汁から抽出した顔料で色を付け，
窯(かま)を用いずにまきの火によって焼き上げたものである。

右――
リーハイの生命の木の示現
(1ニーファイ8参照)
を表現した
直径91センチのこの額は，
エクアドル出身で
ベネズエラのカラカスに住む
プロの芸術家，
ビクトール・デ・ラ・トレス
兄弟の作品。

下――パナマのサンブラス諸島に住むクーナインディアンの姉妹が1980年代初めに作った
幅43センチのモラは，ソルトレーク神殿を表わしている。
モラは，何枚かの布を重ねて縫い合わせ，それぞれの色が出るように上の布を切り取って縫っていくもので，
アップリケと逆の形のものである。
モラは古くから，ブラウスの前の部分に飾りとして使われている。

上――イエスのバプテスマを表わした幅43センチのこのモラも，
1980年代初めにサンブラス諸島の姉妹によって作られた。
太陽の顔は，天から見守っておられる父なる神を表わしている。
木に止まっているオウムは，
サンブラスのインディアンたちの間では，はとと同じで聖霊を表わす。
(裏表紙の作品も参照)□

「死の蔭の谷」を越えて
見付けた愛

ロイス・オーエン・タッカー

1986年9月のあの日のことは，ところどころしか覚えていません。仕事に出掛けた記憶はあるのですが，家に帰った記憶がないのです。ソルトレーク・シュガーハウスステーキ部若い女性会長であった私は，その日の夕方，新任のワード部若い女性会長と会合を持ったはずなのですが，それさえ思い出せません。彼女の話によれば，確かに私はこの若い女性会長の家に寄り，午後6時半ごろ，彼女の家を後にしたといいます。その後，私はソルトレークシティーの東にあるエミグレーションキャニオンまで，買ったばかりの車でドライブすることを思い立ったに違いありません。というのも，そこで私の車は，飲酒運転のドライバーに猛スピードで激突されたからです。

この事故で，危うく命を失うところでした。その日の出来事は断片的にしか思い出せません。そのうえその後，何カ月にもわたって痛みと恐怖に耐えなければなりませんでした。けれどもこの体験が私に奇跡をもたらしてくれたのです。つまり私は，神が一人一人を愛してくだり，思いも寄らない方法で私たちに手を差し伸べてくださっていることが心の底から納得できたのです。

その日，私は次に予定されていたステーキ部若い男性—若い女性委員会までの空き時間を利用して，エミグレーションキャニオンまでドライブし，秋の紅葉を楽しもうとしたのだと思います。しかし，そこへ行った理由が何であれ，私は大きな代価を払うことになりました。カーブを曲がった途端，対向車がセンターラインを越えてきたのです。正面衝突でした。車は大破し，私は車内に閉じ込められました。救急隊が駆け付け，ようやくドアをこじ開けたときには，私はもう助からないと思ったそうです。病院に送られた事故報告では，私は「死亡もしくは危篤」となっていました。

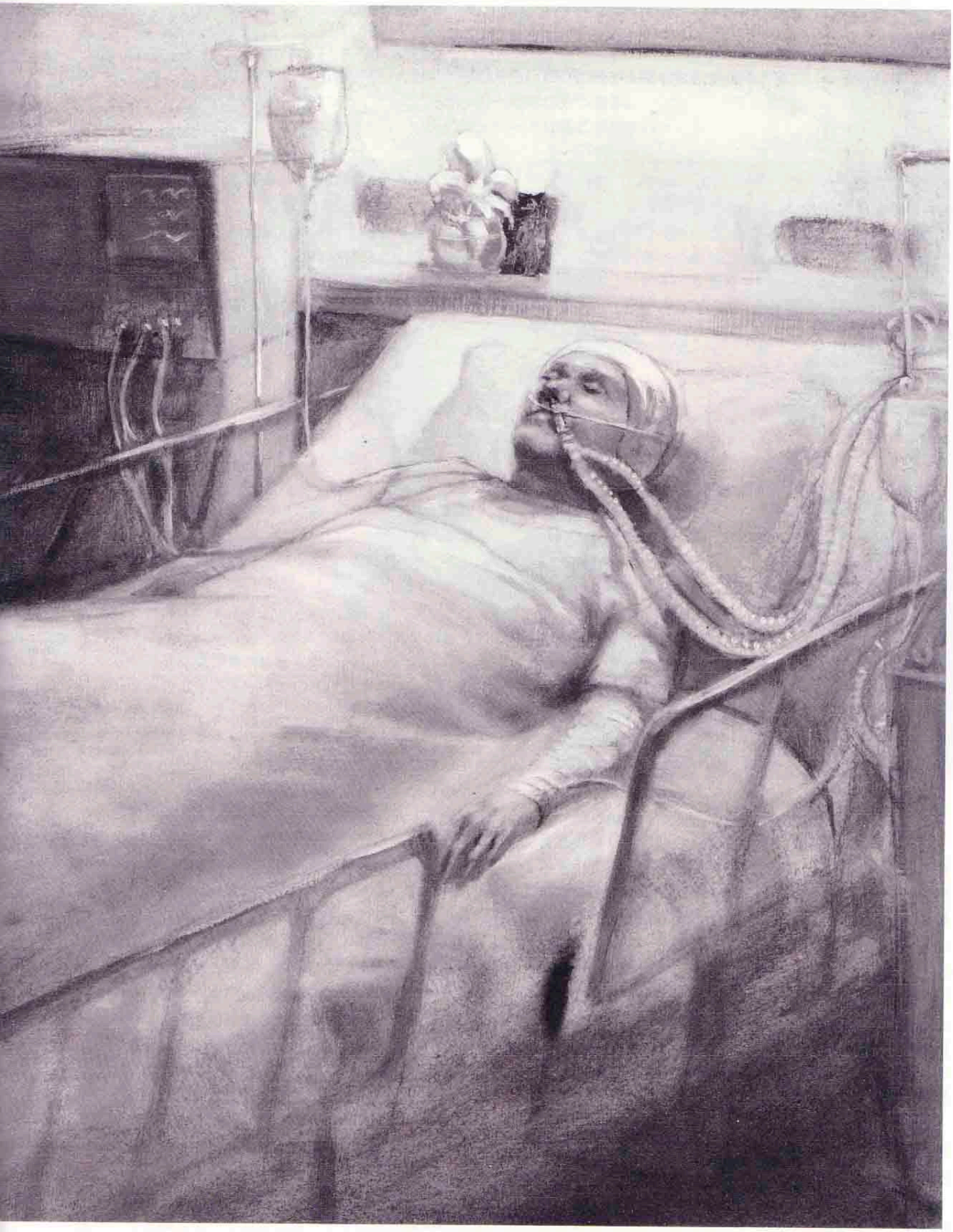
脾臓が2カ所で破裂，横隔膜破裂，片方の肺は完全につぶれて，ほとんど呼吸できない状態でした。ほかにも何カ所も内臓に損傷を受けました。左足には何かが刺さって，神経が切れていました。左腕は裂傷，右くるぶし骨折，頭部裂傷，骨盤は4カ所で骨折していました。

救急診療室で，医師たちは私の肺に管を入れて，膨らませる準備をしましたが，そうしてはいけないという導きを感じ，手術を直ちに開始しました。すると，肺に管を通していたら，内臓の激しい損傷のために，私は命を落としていたことが確認されたのです。

身元が確認できるものは，ハンドバッグの中の神殿推薦状だけでした。病院側はそれで家族と連絡が取れたのです。推薦状から私が所属するワード部のプルーエス監督の名前がわかり，監督から最終的に母のところに連絡がいったのです。

母と弟のカルが病院に駆け付けたのは，午前2時ごろで，すでに手術は終わっていました。ネルソン医師は，家族から手術の許可を受けずに執刀したことを謝罪しました。病院からすぐに家族に連絡が取れず，私の容体では家族に連絡が取れるまで手術を待ってはいられなかったからです。母は私が重体であることを知って，大きなショックを受けました。

カルは姉のマルガリートに電話して，残りの家族に連絡するよう頼みました。姉は私のためにすぐお祈りを始めると言ってくれました。そのときです。穏やかな感情



が強く姉の心を満たし，「神を信頼しなさい。彼女は主のみ手の中にあります。主は何が最上であるかよくご存じであり，すべての力をお持ちなのです」という思いがわき上がってきました。姉は私が神のみ手の中にあるという意味は，父の場合と同じ意味なのだろうと考えました。父はその2年前に，すでに亡くなっていたのです。姉はもう一度，祈り始めました。今度は，私が無事に助かり，間もなく結婚するという，さらに強い答えが返ってきたのです。姉は，なぜ主がこのようなことを教えてくださるのだろうと考えましたが，多分，自分を慰めるために最も良い方法として，主が与えてくださったのだろうと考えました。

そのころ，私には特に決まった相手もいませんでしたし，結婚についても考えていませんでした。すでに49歳になっていて，一生独身だろうとあきらめてから，ずいぶん長い年月がたっていました。祝福師の祝福によれば私は結婚することになっていて，長年この問題と取り組んでいましたが，それでもなお独身でした。主は私がいることをご存じなのだろうかとさえ考えることもありました。私など特に重要な人物でもなく，主にとってはあまり大きな意味もないのだと思うことさえあったのです。

しかし，この事故を機にすべてが変わりました。事故を知ったとき，妹のエスターは，私が活発な教会員なのに，主はなぜ私を守ってくださらなかったのかと疑問に思いました。そのとき彼女の心に次のような言葉がわき上がってきました。「なぜ私が彼女を守らなかったと思うのか。」私は主が確かに私を守ってくださったことを知っています。私の命を救い，終生障害を負って生きる生活から私を守ってくださったのです。救急治療室においては，医師たちが迅速に適確な処置を取れるようにしてくださいました。何よりもすばらしいことは，主の大きな愛をかいま見る機会が私に与えられたことでした。

病院に収容された翌日の朝，カルとワード部の副監督が祝福してくれました。カルは私の完治を約束するのに何のためらいもありませんでした。私が間もなく結婚するという，マルガリートが受けたのとまったく同じ思いを持ったと，後になってカルは私に語りました。

私は，集中治療室で1週間，呼吸を助け容体を監視する様々な医療機器につながれていました。最初の数日間，家族以外に面会を許可されたのは，ステーキ部長だけでした。私は意識はありましたが，話すことができません。強い薬を投入されていたので，事故後2週間の記憶はほとんどありません。覚えているのは，だれかが会いに来てくれたときのことだけです。

集中治療室を出てからは，意識はもっとはっきりして，話もできるようになりました。すっかり家族に頼り切ってしまい，いつも家族のだれかにそばにいてほしいと思いました。家族は皆スケジュールを調整して，必ずだれかがそばにいるようにしてくれました。傷はひどく痛みました。

初めに自覚できるようになったのは，私を包む強い愛でした。それまでそんなに安心した気持ちになれたことはありませんでした。神の愛に深く包まれているのを感じました。その気持ちはとても強くて，今でもどう説明してよいのかわからないほどです。家族の愛も，同じように強く私を包んでくれました。

家族以外の人々について考えるとき，この思いはさらに広がります。若い女性の副会長たちはほとんど毎日面会に来てくれ，彼女たちの心配してくれる気持ちがよくわかりました。プルーエス監督も頻繁に見舞いに訪れ，ワード部全体で私のために祈っていると，話してくれました。私はワード部に集う会員たちの愛を感じました。ステーキ部の役員たちも，ステーキ部で私のために熱心な祈りが捧(ささ)げてられている，と伝えてくれました。勤め先の友人も訪ねてくれました。彼らもまた，心配してくれていることが，よくわかりました。

こうした人々の愛を，私は魂の最も奥深いところで感じていました。事故後の最もつらい時期を乗り越えられたのは，こうした愛のおかげでした。

事故に遭ってからの数カ月間，主は私に様々な方法で祝福を与えてくださいました。なぜかわかりませんが，私はすべての傷が完治し，普通の生活に戻れるということを，初めから知っていました。また，完治した後，事故を起こした相手を憎んで精力を無駄にしてはいけないということも，知っていました。事故のことをいつまでも考えず，心身の快復に気持ちを集中させました。恐ろしい記憶にいつまでもとらわれず，愛とその愛を注いでくれる人々に気持ちを向けられるよう，主が助けてくださっていることを，私は知っていました。

入院後2週間半で退院の許可が出ましたが，医師たちは私を療養センターに移すよう家族に勧めました。私は新しい場所へ行くことに，大きな不安を覚えていました。主に祈ってどうすればよいか尋ねてほしいと，カルに頼んだのを覚えています。私は主にすっかり頼り切ってお

「主はある祝福の中で，私の命を長らえさせたのだから，喜びに満ちた幸せな生活を築きなさいと言われました。」
タッカー姉妹はそう語る。
夫のジェリーと結婚式の日に。

り，主に相談しないではいかなる決定も下したくないと思っていました。家族はいつもそばにいてくれましたし，私も頼ってはいましたが，何よりも主が私を心にかけてくださっていることを知っていたからです。

9月20日，私は療養センターに移されました。薬が半分に減らされたので，周囲の状況に対する意識もかなりはっきりしてきました。1週間，私は体力をつけ，骨折した箇所をかばいながら体を動かす方法を会得しようと努力しました。センターからの退院後は，カルの家に引き取られました。私を同居させてくれた弟夫婦には，心から感謝しています。とても居心地良く過ごしました。弟の子供たちは，毎日学校から帰ってくると私の部屋に来て，その日の出来事を話してくれました。子供たちとの交流が，普通の生活に戻る大きな助けになりました。

入院中は薬が強かったので，なぜ自分が入院しているのかはわかっていましたが，それ以外のことには思考を集中させることができませんでした。でも今度は，薬を一切取っていません。カルの家に移った後の数日は，眠りに就くのを恐ろしく思いました。かろうじて命を取り留めた状態だったので，眠ってしまったらそのまま朝が迎えられないのではないかと思ったのです。夜中に目が覚めると，恐ろしかった事故のことや，けがのことが頭に浮かんで離れませんでした。命を落としていたかもしれないし，終生障害者になっていたかもしれないのです。

こうした不安な気持ちで過ごした夜は，主に救いを求めました。するとまたたく間に，心は平安に満たされ，主が与えてくださったたくさんの祝福が思い出されました。大きな平安が私を包み，安心して眠れたのです。そうしたときには，天父の恵みと愛をあふれんばかりに感じました。

事故から約7週間後，私は自宅に戻りました。日中はほとんど家族が一緒にいてくれましたし，動き回らなくて済むように，あれこれ世話をしてくれました。でも，最初の日曜日の午前中を，ひとり家で過ごしたときは，

心細く思いました。いつもだれかがそばにいて，愛を注いでくれたので，ひとりを本当に寂しく感じました。今までに感じたことのないような心の底からの寂しさでした。独身である寂しさ，母親になりたいという望みが満たされないいらだちは，過去にも感じていましたが，こうして家族の愛に囲まれた後で，また独り暮らしに耐えることはできそうにもありません。

その日の午後，ジェリー・タッカー兄弟が訪ねてきました。タッカー兄弟とは，彼が若い女性プログラムの担当高等評議員会アドバイザーとして召されて以来の知り合いだったので，訪問を続けてくれたことにもそれほど驚きませんでした。ですが，数カ月後に結婚の申し込みを受けたときは，彼に対する自分の気持ちを測りかねました。自分の判断を思い違いしていないか，ほかの人にも確認してもらう必要があるのは，当然のことのように思われました。事故に見舞われたときも，その後，徐々に容体が快復していく間も，主は絶えず私と共にいてくださいました。家族も温かい支えを与えてくれました。ですから，主と家族の知恵を借りて，双方に結婚を承認してもらう必要があると，私は考えたのです。

私はジェリーからのプロポーズについて，祈り始めました。ある日，祈りは大きな平安をもって答えられました。私は自分に結婚の時期が来たことを知ったのです。私はまた，主が私をひとりにされなかったこと，約束は必ず守ってくださることを知りました。1987年2月12日，ジェリーと私はソルトレーク神殿で結ばれました。

この経験を通して得た確たる思いを，独身の友人全員に，分かち合いたいと思いました。人生には私たちに理解できないことが起きますが，天父はいつも身近にいて，私たちを心にかけていてくださることを，私は実感できました。

時がたち，事故で受けた傷は完治しました。でも，私は事故の前の私ではありません。自分では知っているつもりで実はまったくわかっていなかった多くの事柄を，学んだからです。主への信仰と信頼は，以前にも増して深くなりました。主が生きておられることを知っています。私の生活における主の影響力を実感したのです。

また，奇跡がごく普通の人の上に起きることも知りました。かつて自分は特別な人間でも何でもないと思っていました。でも今は，特別な存在であることがわかります。神の娘として特別なのです。私たちは皆，愛に満ちた天父の子供として，特別な存在なのです。この事実は，今の私にとって，まさに現実感を伴ったものなのです。

事故に遭う以前は，神がどれほど愛に満ちた慈しみ深いお方かわかっていませんでした。今でもなお，その愛の深さを完全に理解できたとは思いませんが，私たちが考えているよりもずっと大きな愛を注いでくださっていることは感じます。たとえあの事故で命を失うか，終生障害を負うことになっていたとしても，主は私と共にあって，主が最善と判断される方法で，祝福を与えてくださったものと信じます。

私は祈りの大切さを学びました。私のために捧げられた祈りの力を，実際に感じました。私が愛する人々のために主に祈るとき，それは特別な意味を持つようになりました。愛する人々が困難に陥ったときには，主が私と共にいてくださったように，彼らのそばにいてくださるよう祈ります。私に奇跡が起きたのは，皆が事故のことを知って祈り始める何時間も前でした。でも日々の祈りの中で，家族はいつも私のために祈ってくれていたのです。

喜びも知りました。主は神権者を通して授けてくださった祝福の中で，こう言われました。「私はあなたの命を長らえさせたのだから，喜びに満ちた幸せな生活を築きなさい」と。主は私たちの幸福を極めて大切に考えてくださっていることが，理解できるようになりました。聖典の至る所で喜びについて言及されています。この福音は喜びの福音であることが，今，またさらにはっきりとわかったのです。

健康の大切さもわかりました。体は神からの特別な祝福です。そして健康は宝です。健康管理の大切さも，ひしひしと感じています。天父は人に，命と私たちの持てるすべてを与えてくださいました。それらを大切に扱うのが，私たちの務めなのです。

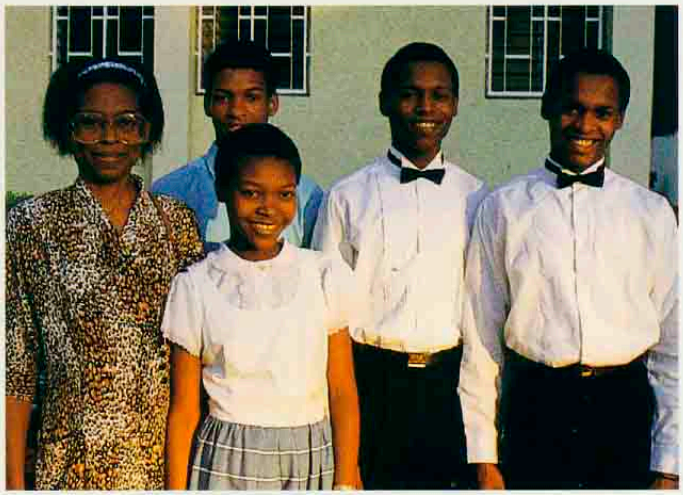
確かに事故は悲惨な経験でした。しかしそれにも増して，主が与えてくださった祝福の大きさに，私は感謝し尽くせない恩義を主に感じます。お返しできないほど大きな恵みを，私は主から受けています。しかし主は私から「お返し」を受けることを望んでおられるでしょうか。そうではなく，主が望んでおられるのは私の愛であり，私の幸せです。その幸せは，全身全霊を尽くして主を愛し，主に仕え，喜びを人々と分かち合うときに得られるのです。□

＊ロイス・オーエン・タッカー姉妹：ソルトレーク・シュガーハウスステーキ部エマーソンワード部所属。

「泉でバプテスマを施すアルマ」ヘンリー・ロバート・ブレシル画

ハイチにおける教会の初期の改宗者のひとりであるブレシル兄弟は、画家としてハイチで指導的な位置にあり、その作品は合衆国やヨーロッパでも展示されている。60センチ×90センチのこの作品は、現在ユタ州ソルトレークシティーの教会歴史美術博物館にある。一九八八年制作。（「信仰を形に—末日聖徒の芸術」本誌36ページ参照）

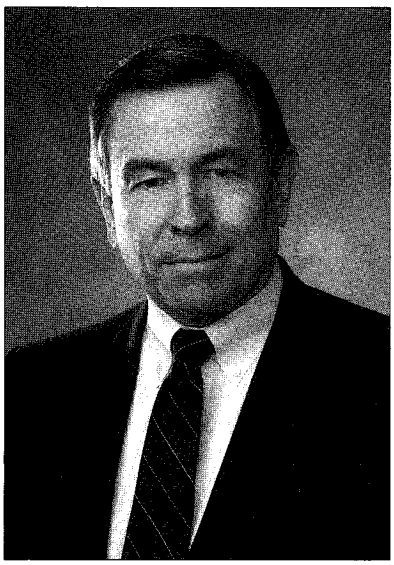
聖徒の道 1991年11月20日発行(毎月1回20日発行)第35巻第11号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可



カリブ海に浮かぶ島国ハイチの聖徒たちは，福音の中に限りなく大きな希望と力を見いだしている。彼らは福音の助けを受けて経済的，社会的に困難な状況と取り組み，ウィルヘルミナ・プライス・オリビエ姉妹の家族のように家庭内のきずなを強めている。子供たちはジーン・エマヌエル，双子のダニエルとデビッド，サンドラ。(「福音に希望を託すハイチの聖徒たち」本誌10ページ参照)

断食の律法

アジア北地域会長会会長
W・ユージン・ハンセン



1991年7月29日，アジア地域会長会会長マーリン・R・リバート長老は中華人民共和国の首都，北京（ペキン）を訪れました。その目的は中国政府に20万香港（ホンコン）ドルを手渡すことでした。中国では最近大規模な洪水があり，被害は広い範囲に及びましたが，このお金はその被災者援助に充てられます。私たちの寄付は中国政府から深い感謝の念をもって迎えられ，間違いなく多くの人々の苦痛を和らげ，被害を緩和するのに役立つでしょう。

ここで重要な点は，アジアの聖徒たちから寄せられたその高額の寄付金は断食献金だけで賄われた，という事実です。アジア地域全体に広がる様々なワード部，支部がそれらの献金を納めています。したがって，断食を守り断食献金を納めている人々は，その額の多少にかかわらず，キリスト教徒にふさわしい愛ある行為の一端を担えたという事実に，喜びを感じるでしょう。

こうして福音の原則と律法を守るなら，一人一人が幸福になり，キリスト教徒にふさわしい愛ある行ないを実践できることがわかります。また，数々の原則を日常生活の中に取り入れて実践する，個人的な機会と責任が与えられていることもわかります。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である私たちには，毎月断食の律法を守る機会があります。この機会を通して自己を鍛える力を養い，豊かな霊性と自制心に心を向けることができます。

教会員は，断食の律法を守るうえで以下の行ないが必要であると教えられています。

1．続けて2食，飲食を断つ。
2．断食証会に出席する。
3．援助を必要としている人々に手を差し伸べられるように，監督，または支部長に惜しみなく献金を納める。

収入が少ない人々の献金は，断食をした2食分の金額で十分ですが，資力のある人々は2食分に相当する額の何倍も献金するとよいでしょう。断食献金の額が適切かどうかを判断するよい基準は，それが犠牲と感じられるかどうかという点にあると，私は理解しています。

教会の指導者たちは，長年，断食を守るよう会員たちに勧めてきました。

ハロルド・B・リー大管長は，1971年に行なった説教の中で，断食に関するヒーバー・J・グラント大管長の言葉を引用しました。

「すべての教会員が断食を守り，（断食）献金を捧げるように勧めを受け，惜しみなく献金するときに得られる祝福を経験すれば，私たちの献金で貧しい人々の必要を十分に満たせるようになるでしょう。

教会の民が断食を守り，献金を納めて清い目的で断食を行なうならば，捧げられた献金の額を心配する必要はなくなるでしょう。」

十二使徒定員会会長のハワード・W・ハンター長老も，1985年の説教の中で，次のような賢明な助言を残しています。

「断食によって自分を訓練することにより，私たちは神と一致することができます。また，断食日はこの世的なことを忘れる機会を与えてくれます。それによって私たちはより高い霊性にあずかることができるのです。定められた日に断食をすることにより，私たちは恵まれない境遇にある人々が必要としていることを，より深く理解することができるようになるのです。」（『断食の日』「聖徒の道」1986年1月号，p.72）

最近の説教の中では，ゴードン・

B・ヒンクレー副管長が次のように勧告しています。

「断食献金を惜しみなく納めることにより，恵まれない人々の必要を満たしてなお余りある献金が集まるように願っています。この教会のすべての会員が断食をして，惜しみなく献金するなら，この教会の会員だけにとどまらず，ほかにも大勢の貧しく助けを必要としている人々に祝福が行き渡り，必要が満たされるでしょう。施しをする人々は物質的にも霊的にも祝福され，飢えに苦しむ人々には必要に応じて食糧が与えられ，裸でいる人々にも衣服が提供されるでしょう。」

断食は教会員一人一人が個人で実践できる事柄です。心と思いをこの務めに向けるのは，教会員一人一人の問題なのです。断食を正しく守れば多くの祝福がもたらされます。霊性は高まり，心身を一層鍛える機会に恵まれます。それらの祝福に比べれば，取らなかった食事に相当する額を献金するのは何でもありません。空腹を抱え，住む場所もなく，医療を必要とする人々の放置された問題に取り組むなら，私たちは「空論に走る者」ではなく，「実際に行なう人」になるのです。

こうして私たちは，仁愛の精神が必要とされる機会に絶えず心を向けていることを，天父に対して，そして自分自身に対しても証明するのです。この仁愛については，予言者たちがいにしえから勧告を残してきました。

「人に〔は〕愛がなくてはならない。人に愛がなければその人は何ものでもない。」(モロナイ７：44)

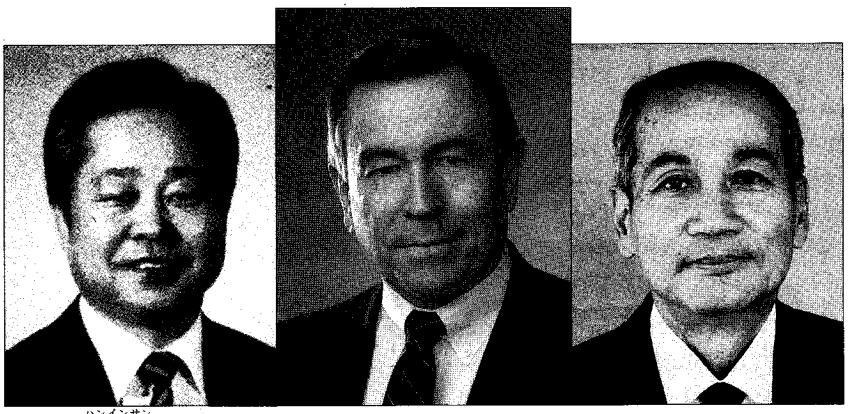
「たといわたしが，人々の言葉や御使たちの言葉を語っても，もし愛がなければ，わたしは，やかましい鐘や騒がしい銅鉢(にようはち)と同じである。」(Ｉコリント13：１)

私たちが貧しい人々や恵まれない人人に思いをはせるとき，仁愛の精神に富んだ行ないが必要とされていることを自覚できるように願っています。また，だれもが断食の律法に従って生活する決意を，もう一度新たにできるように願っています。そこからすばらしい祝福が生まれてくるでしょう。□

チャーチニューズ

ローカル

アジア北地域，組織される



韓仁相(ハンインサン)長老　W・ユージン・ハンセン長老　サム・K・島袋長老

大管長会はこのたび，新たにアジア北地域とヨーロッパ地中海地域を創設することを発表した。これにより，全世界に広がる教会の管理地域は22を数えるに至った。

アジア北地域はアジア地域の分割により創設されたもので，日本と韓国を管轄地域とし，10月１日付で活動を開始する。同地域は本部を東京に置き，15万2,000人の会員と36ステーキ部，14伝道部を擁する。

新設されたアジア北地域の地域会長会には，地域会長にW・ユージン・ハンセン長老，第一副会長に韓仁相長老，第二副会長にサム・K・島袋長老がそれぞれ召された。

七十人第二定員会会員であり，アジア地域会長会会長であるマーリン・R・リバート長老は次のように述べている。

「ご承知のようにこのアジア北地域は，アジアの教会員数の大半を擁しています。日本と韓国の会員たちにとって，新地域の創設はすばらしいことです。会長会全員が，東京を拠点として，日本と韓国の人々に援助を与えられるようになるからです。

新地域の創設は，教会が発展し続けていることの，ひとつの表われでもあります。」

なお，アジア地域は引き続き，以下の各国，各地を管理する。中国，インド，インドネシア，マレーシア，シンガポール，スリランカ，タイ，台湾，香港，マカオなど。アジアの大半を管理するこの地域は，５万1,000人余の会員と７ステーキ部，５伝道部から成る。(「チャーチニューズ」1991年９月７日付)

家族の触れ合いを深めるには

再婚して1年目のころに，心の交流が円満な人間関係の鍵になることを理解しました。夫婦同士の関係が，家族全員の心の触れ合いに極めて大きな影響を及ぼします。

我が家で役立っているちょっとしたアイデアを，ここでいくつか紹介しましょう。

●家族は率直で誠実な態度で話し合い，お互いに理解し合う必要があります。飾らない態度で十分に意見の交換ができれば，誤解して傷つくことはほとんどなくなり，家族は一層幸福になります。

●家族や接する相手に対して，明確にまた上手に自分を表現する必要があります。ただ「私はこれこれのように感じます」とだけ言うのではなく，そのように感じる理由も説明します。なぜ自分がそのように感じるのかを相手に伝え，相手にもこちらの考えをどのように思うか話すよう勧めるのです。

●子供たちには「ぼく(または私)は何々の理由で悲しい」と，言葉で言わせるようにして，相手をなじったり，実力行使には及ばないように教えます。心の思いや動きを言葉で表現しなければならなくなると，子供たちは自分の行動や態度を意識するようになり，こうして自分をコントロールする方法を学ぶようになります。人に物を頼むときは，その理由も話すように彼らに指導すれば，望みと必要の区別もできるようになります。

●望ましい心の交流を図るには言い方を工夫するだけではなく，耳を傾ける技術も，劣らず大切であることを忘れてはなりません。相手が心の底から自由に自分を表現できるようになるまで，性急に裁いたりせずに，進んで耳を傾けてください。話すときは本心を伝えるように勧め，こちらも相手の本心を把握するように努めます。

ユタ州ウエストバレーシティー
カレン・D・ギャレット

家庭の夕べ

我が家で家族同士の心の交流にこれまで一番役立っているのは，家庭の夕べです。教会に改宗して10年目に入りましたが，それ以前は，家族同士で気持ちの食い違いがありました。しかし，月曜の夜に家庭の夕べを開くようになってからは，レッスンや活動をするだけではなく，家庭内の問題や特別な経験を自由に話す時間も取れるようになりました。これまで福音を教えるすばらしいひとときを，子供たちと一緒に何度も過ごしました。今では，4人の子供たちは，いつでも両親と話ができることを知っています。

家族で一緒に祈るのも，家族同士が心を開いて話す習慣を築くのに一役買っています。天父にどう話し掛けるかを知ることで，家族一人一人がどう話し合うべきなのか一番よく理解できます。

ニューヨーク州ブロンクス
アンジェラ・セパルビーダ

話の腰を折らない

かつて私は，人から怒って次のように指摘されたことがあります。「君はいつも話の腰を折るね。そうじゃないかい。」私は自分を振り返って反省してみました。しかし，何日も祈りをもって考えてみましたが，一度もそのような話し方をしてはいないと思いました。相手が経験談を話すときに，同じような自分の体験を持ち出して相手の話を中断するようなことは避けるように，何度も自制しました。助言したり，別の方法を教えたり，批判したりするのを避けたのです。家族や親しい人々は私が彼らの話に注意を払うことがわかるようになると，喜んで私と話をするようになりました。人は，信頼できる相手に自分の思いを伝えることで，みずから解決策を見いだすときもあるのだ知りました。

私が実践している会話法のひとつは，相手の話に口をはさまずに耳を傾け，次いで相手の言ったことをそのまま自分の言葉で繰り返して，話の内容を自分が理解しているかどうか確認することです。この方法を使うようになって，相手の言っている事柄がよく理解できるようになり，人の気持ちを尊重できるようになりました。今では皆こう言ってくれます。「話を聞いてくれてありがとう。」

テキサス州ダラス
マリアナ・ネフ

気遣いの勧め

新婚生活に入って1カ月目のことでした。職場から帰ってみると，家の中が空っぽです。1時間たっても，夫はまだ姿を見せません。おかしいな，と思いました。さらに時間が経過すると，私は不安にすっかり心を乱してしまい，目には涙さえ浮かんできました。

その晩，9時半ごろになって，夫はまるで何もなかったような顔をして帰って来ました。私は胸がつかえて何も言えないほどでした。自分の涙が怒りの感情からのものか，安堵の感情からのものかもわからない状態でした。私の詰問が彼には意外だったようです。夫は単に友人と狩猟に行き，そのうち時間を忘れてしまっただけなのだと言うのです。そして，私が彼の自由を妨げているように感じたようでした。

それから2，3カ月後，今度は夫が私の気持ちを理解する番がきました。私のいないときに夫が帰宅したのです。だれに聞いても私の行き先がわかりません。私は近所の家を訪ねていただけでしたが，帰宅したときの夫の顔は今でも忘れません。「何で書き置きくらい残して行かなかったのさ。」夫はそう言って，ありありと心配の表情を表

わしました。

ちょっとした気遣いひとつが，相手の自由を知らないうちに邪魔したくない，ただ愛しているだけなのだという気持ちを理解し合うのに役立つでしょう。それがわかれば，もっと心の交流が図れるのではないでしょうか。

ユタ州プロボ
リンダ・ブラント・バーニー

夫婦のデート

夫婦で一緒に過ごす時間がなくなると，お互いに対する理解が失われてくるものです。そこで私たちのワード部では「夫婦のデート」の夕べを実施しました。

ワード部の反応はなかなかのものでした。まず，何人かの会員に夫婦の出会いや結婚生活での楽しい思い出などを，ほかの人のいない所で聞きました。次いで彼らの許可を得て，あまり知られていないような「逸話」をファイヤサイドで紹介し，話の上手な人に伴侶と「デートの夕べ」を頻繁に持つよう奨励してもらいました。その日は，それぞれの夫婦に，「デートの夕べ」を始めるきっかけを作り，伴侶を誘えるようにディナー券や映画券を配って，集会を終えました。幼児を抱えた夫婦のためには，若い女性が組織でベビーシッターの役目を買って出てくれました。

伴侶とのデートは，夫婦の心の交流ばかりか，ふたりの愛情も深めてくれます。

テキサス州フレンズウッド
シャロン・リード

相手の本心を酌み取る

私の家庭では，人が耳を傾けたくなるような話し方，心を打ち明けて話したくなるような聞き方ができるように努めています。あるとき，十代の娘から「私の言っている意味がわかってないわ，お父さん」としかられたことがあります。私は，言葉の意味は，言葉そのものの中にあるのではなく，それを言う本人の感情の中にあることを，そのとき悟りました。

以来，パウロの次の言葉が私にもわかるようになってきました。「世には多種多様の言葉があるだろうが，意味のないものは一つもない。もしその言葉の意味がわからないなら，語っている人にとっては，わたしは異国人であり，語っている人も，わたしにとっては異国人である。」（Ｉコリント14：10—11）

アイダホ州ポカテロ
エド・オックスフォード

予定表を作る

十代の子供たちを抱えた我が家では，家族全員の外出予定を記した大きなカレンダーを作成することが家族の交流を図るひとつの鍵になっています。それを，だれもが確認できるように，冷蔵庫の前に張っています。毎週家庭の夕べでは，その週の活動や大切な予定を話し合います。

家族の意思疎通を図るために心掛けていることをさらに３つ記しておきます。

●家族がいつでも自由に話し合えるように，互いに話しやすい関係を維持することに努める。
●相手の考えていることがわからないときは，いろいろな質問をする。
●こちらの話を確実に相手に理解してほしいときは，こちらの言ったことを彼らの言葉でもう一度言うように頼む。（メッセージを伝えるだけではなく，それを受け取るのも同じように大切なものです）

デラウェア州タウンゼンド
ケネス・Ｌ・マクビッカー

まとめ

1．誠実に耳を傾ける。自分の気持ちを明確に，上手に表現する。
2．家族の活動を毎週持ち，伴侶と特別なデートをする。
3．性急な判断を下したり，批判したり，押し付けがましい助言を避ける。
4．自分が望むような思いやりを，相手にも同様に示す。

（「チャーチニューズ」1989年９月２日付）

ローカルニューズ

ローカル

再組織されたステーキ部長会

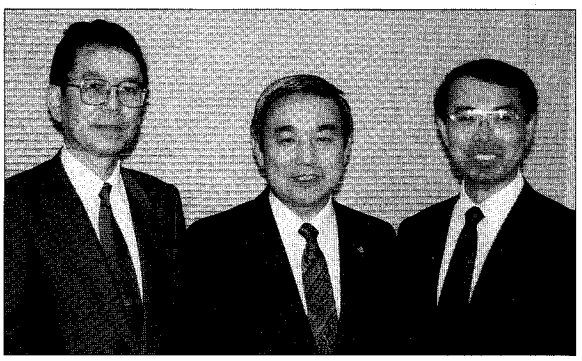
横浜ステーキ部

去る５月に開かれた横浜ステーキ部大会で，1986年からステーキ部長の責任を果たしてこられた田中靖也（たなかせいや）兄弟が解任され，新たに遠藤大（えんどうだい）兄弟が召されました。第一副ステーキ部長，第二副ステーキ部長には塩隆彦（しおたかひこ）兄弟と熊沢幸雄（くまざわゆきお）兄弟が召され，その任に当たります。

エノクの民のように神と共に歩もう

横浜ステーキ部
ステーキ部長
遠藤　大

1961年の12月の夕刻，美大生だった私は画材店へ買い物に出掛けました。しかしすでに店は閉じていたので，表の木戸を少し強くたたいていました。すると私の様子を見ていたふたりの宣教師が背後から声を掛けてきました。「ちょっとお話ししてもいいですか。」北都金沢の街で外国人に出会うのはまれで，好奇心もあったのですぐ受け入れました。買った画材は何だったか忘れてしまいましたが，このとき私は福音の扉を開けることになりました。すっかり暗くなっていた通りで話し掛けてくださった，スティーブンス長老とフレンコム長老は私にとっ



写真上——左から塩隆彦第一副ステーキ部長，遠藤大ステーキ部長，熊沢幸雄第二副ステーキ部長
写真右——遠藤大ステーキ部長ご家族

て永遠の友です。

翌年2月の早朝，金沢の街を流れる犀川の河原にはひざまで雪が積もり，川の水面からは水蒸気が白く立ち込めていました。私は悔い改めの証として白い衣に着替え，身を刺すような冷たい流れに入ってバプテスマを受けました。たき火を囲んで見守ってくださった会員たちの愛と水から上がった後の火照るような温かさは，今も忘れられない神聖な体験です。

金沢での学生時代は教会生活も加わって思い出が2倍になりました。特に野田，亀井，北川，北野家族らの励ましによって信仰の礎を築くことができました。病院を教会堂に改築したとき，木型職人の北川兄弟に従って会員たちが一致して工事に加わり，クリスマスパーティーの開会5分前に最後の床材を張り終えたときの感動は今も忘れられません。それは神様からのタイムリーで大きな贈り物でした。

卒業証書よりも大切な福音という収穫を手に，就職のため横浜に移りました。初めて横浜支部に出席した日が教会堂建築の鍬入れ式の日で，この日から10人余りの建築宣教師と会員たちの奉仕によって工事が始まりました。後に結婚した孝姉妹と出会ったのはこのころで，ふたりが会うのはいつも建築現場で奉仕の時間でした。美しい教会堂は2年半かかって完成し会員たちの献金の完納により，ヒュー・B・ブラウン副管長によって献堂の祈りが捧げられました。奉献されたばかりの礼拝堂で結婚式を挙げ，お金がなくて苦しい時代でしたが翌月ハワイ神殿で結び固めをしました。このことは私ども夫婦にとって信仰のいかりとなりました。

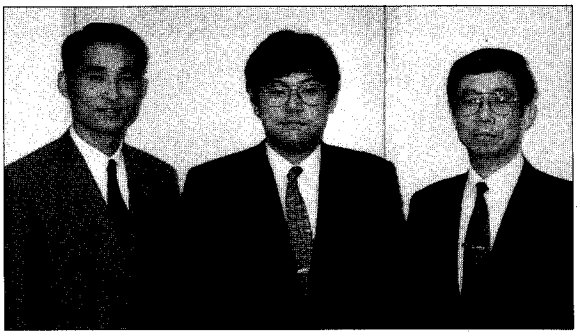
横浜に移ってから大勢のすばらしい指導者に出会ったことは何よりの祝福でした。アジア初のステーキ部が日本に組織されたときに，ステーキ部祝福師の責任に召された渡部正雄兄弟とホームティーチングを組んで，日本の女性で最初にバプテスマを受けた鈴木ナミ姉妹を訪問したとき，姉妹は布団から起き上がって「恐れず来たれ，聖徒」を古い歌詞で歌い，ヒーバー・J・グラント長老の思い出話などを聞かせてくださいました。それから間もなくして，ナミ姉妹は愛用していたお財布ごと献金して天に召されました。また，日本で最初にステーキ部長に召された田中健治兄弟とホームティーチングに行ったとき，道々，「結婚に関しての聖句をいくつ知っていますか」と聞かれました。結婚が間近だった私は，不勉強を大いに反省し，結婚が主によって定められた神聖な儀式であることを学びました。

結婚した私たちはしばらくの間，子供に恵まれませんでした。何人かの医者に相談しましたが，産める状態でないという同じ答えでした。先が真っ暗になるくらいにがっかりしましたが，私たちには信仰と希望と愛があるから楽しくやっていこうと話し合いました。それからしばらくして医者から帰ってきた妻が私に言いました。「おめでたですと言われました。」こうして生まれた長男に従順の順と名付け，さらに謙，慎と3人の息子に恵まれました。今長男は札幌伝道部で伝道中です。息子からの毎週の手紙は家族にとって何よりの祝福です。息子と福音について手紙で語り合うのは実に楽しく，近ごろは逆に私が励ましを受けています。信仰生活での祝福の思い出は数えきれません。

5月のステーキ部大会でW・ユージン・ハンセン長老は，「高慢で言うのではない。ステーキ部長の召しは私が導きを受けて決めるのです。みたまの導きによって決めるなら決して間違わない。みたまに従った生活をしているからできるのです」と話されました。新しい召しをお受けするに当たって，「みたまに従った生活をすること」は私にとって最も大切なテーマです。

ステーキ部長会の塩隆彦兄弟と熊沢幸雄兄弟はいつも良い模範を示してくださる信仰あつい方々です。ステーキ部やワード部の神権指導者や会員の皆様，一致してエノクの民のように神と共に歩み，くいを強くし，その境を広くしようではありませんか。(モーセ7：18—19，69；モロナイ10：31—32参照)教会は予算交付制度により財政的にも，プログラムの質においても新しく成長しつつあります。しかし教会員が自己を聖めることはもっと大切です。(教義と聖約20：30—31参照)イエスが救い主であり，ジョセフ・スミスはイエスを除いて最も人類のために尽くした方であり，(教義と聖約 135：3参照)この教会は主の教会です。モルモン経はイエスを証する神聖な書物であり，ベンソン大管長は主の予言者であることをへりくだり証します。□

写真下――左から猪股洋文第一副ステーキ部長，鈴木譲司ステーキ部長，山田直樹第二副ステーキ部長
写真右――鈴木譲司ステーキ部長ご家族



仙台ステーキ部

去る5月に開かれた仙台ステーキ部大会で1982年からステーキ部長の責任を果たしてこられた藤村康男兄弟が解任され，新たに鈴木譲司兄弟が召されました。第一副ステーキ部長，第二副ステーキ部長には，猪股洋文兄弟と山田直樹兄弟が召され，その任に当たります。

いつも明るく，楽しく，元気よく

仙台ステーキ部ステーキ部長
鈴木譲司

5月に行なわれたステーキ部大会において七十人の菊地良彦長老から面接を受け，ステーキ部長として召されたとき，その責任の重さと神聖さに，心が引き締まる思いがしました。思えば11年前，妻と共に教会を知り，強い証もなく，モルモン経もあまり読まず，妻のお付き合いで，バプテスマを受けたような気がします。最初は教会へはなるべく深入りしないでおこうと心に思っていたことを覚えています。

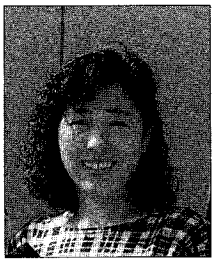
教会員となってしばらくして，私は焦らずに，ゆっくりと進んでいこうと決意しました。聖典や指導者の話に親しんでいくうちに，私の心の中に証が徐々に広がり，浸み込んでいくのがわかりました。決して成長の早くない私が大きく変わったのは，監督に召されたときでした。なぜ，知識もなく知恵にも不足している私を，神様はお選びになったのかと，深く考えました。任命を受けるとき，当時の藤村ステーキ部長は，私に謙遜さを忘れずに一生懸命にこの召しを果たすように，と祝福してくださいました。私はこのときの言葉を胸に深く刻み，全力を尽くし，誠心誠意主のために働こうと決意しました。

このときに感じた思いは，現在も変わることはありません。私は今，心から喜んで，主の業に努めていきたいと思っています。思えば，教会を知ってから現在まで，神様とイエス様から，多くの恵みを受けて生活をしてきました。また，多くの方々に見守られ，励まされ，教えられ，助けられ，支えられてきました。そして何よりも，多くの愛を受けてきました。私はこれらの祝福を受けられたことに感謝しています。教会に巡り会っていなかったなら，このような多くの感謝の念は生じなかったでしょう。イエス・キリストの確かな福音を知り，真理の目が開かれ，私自身を変えることができました。私は，これからも，神様に仕える者として，また善き僕となれるように，神の業に喜んで携わっていきたいと思います。私のモットーのとおり「いつも明るく，楽しく，元気よく」毎日の生活を，送っていきたいと思います。また，現世において与えてくださった，家族を大切にし，家族と共に，来世において共に暮らせるように，福音を楽しんでいきたいと思っています。□

家族の証

本当の幸福をつかむために

郡山地方部
会津若松支部
梶内悦子



改宗する前，私は十分幸福だと思っていました。やさしい夫とかわいい子供たちや健康に恵まれ，一生の仕事と思える職業を持って。でも夫が改宗して以来，比べるものがないほどの幸福を感じています。人の悪口を言いたくなるとき，自分のつらさをわかってほしいとき，また，相手にばかり要求したくなるとき，以前の私たちならそんな感情に流されて非難したり，愚痴を言ったり，理解してくれないと言ってはいさかいになったりすることもありました。その中にあって，私た

ちは善良な人間だと思い込んでいました。それが，夫が改宗して1年，ふたりとも弱い人間なのでときどきそのような状態になることがありますが，後で必ず話し合いをして自分たちが高慢なことを悟り，もっと別な思いになります。特に福音を学び始めたばかりの夫から教えられ，いさめられることの方が多くなり，ほかの人に対しても，お互いの間でも，主の前にいるような謙遜さを身に付けようと話し合える夫婦になってきました。そして，夫と一緒にいるとき，いつもその場にイエス様がいらっしゃるのを感じます。私が改宗した5年前に，いえ夫が改宗した1年前でさえも，私たち夫婦がこんな幸福を感じることができるようになるなど信じられないことでした。

でも，ここまで来るのに4年かかっています。福音を知って，ほとばしるように証をしていた一時期，大酒豪だった夫に対していかにも罪人のような扱いをしてしまった一時期，インスティテュートの教師に召されてからは，家庭の中でも教師のように振る舞っていた一時期，そしてあきらめて，福音については無口になっていった一時期。そんな中で夫は，私が受け持っていたインスティテュートに出席するようになりました。「絶対会員にならない。月1回ぐらいなら」という条件の下で，福音を学び始めたのでした。でも夫は次第に熱心になっていき，福音に対する証が少しずつ芽生えてきたようでした。

そして決定的な決断を迫られた1年前の5月，上の高校3年生の娘の将来について話し合っていたとき，私たちは先々娘と共有できる時間の少なさに大きな不安を覚えました。このまま娘を社会に出して大丈夫だろうかと，私が夫を問い詰めるように言うと，夫から逆に問い返されました。「なぜ子供たちは4年も福音を学んでいるのに変わらないんだ。まして，あなたはインスティテュートの教師なのに。」自分がインスティテュートで，少しずつ変わってきたのを感じていたこともあったのでしょう。私は答えました。「私の力では，子供たちをつないでおくだけで精一杯。」「じゃ，どうすれば変わるんだ。」「それは……お父さんが会員になって，ふたりで頑張ったら。父親もやらないことを子供たちは自分からはやらないと思う。」

随分悩んだようでした。しばらく無言のまま時が過ぎましたが，やがて夫は口を開いてこう言ったのです。「おれは6月30日にバプテスマを受ける。」

あれから1年，我が家でもやっと家庭の夕べが定着しつつあります。夫や子供たちが積極的に霊的なお話や活動を受け持ってくれ，すばらしい1時間を毎週持つことができるようになりました。

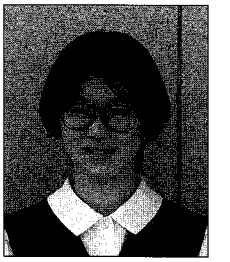
その上，ふたりの娘は4月から早朝セミナリーに出席し，少しずつ生活の中に変化が見えてきました。5時30分に自分たちで起きて行けるようになり，ほかの生徒の心配もするようになりました。そして以前は子供っぽい要求が強かったのですが，今では私たちと交わす言葉の中に思いやりや気配りが感じられ，また友達に教会のことやセミナリーのことを話せるようになったのか，よく教会に一緒に遊びに来るようになりました。本人たちの気付かないところで，イエス様の道を歩み始めていることがわかります。

今，どんなにお金をかけても得ることのできない本当の幸福に，たどり着いたと感じています。本当に神様とイエス様がいらっしゃって，私たちに真の幸福への道を備えてくださり，私たちが望み行なうときにその幸福は必ず手に入れることができると証します。

（かじうち・えつこ　インスティテュート教師）

早朝セミナリーに替わって

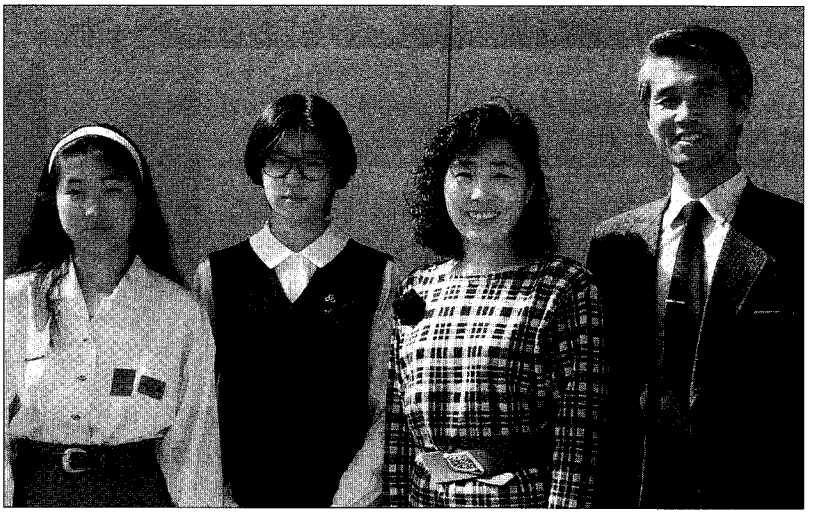
郡山地方部
会津若松支部
梶内奈緒



セミナリーを私が受け始めて，もう4年目になろうとしています。始めたばかりのころは，4年もあるんだと少々うんざりもしましたが，月日がたつのは早いもので，今年が最後の年になってしまいました。去年までは週1回だったのが，今年から早朝に替わりました。間に合うように行くには，5時30分に起きなくてはなりません。初めは毎日続けることができるのかと，すごく不安でした。でも1週間も過ぎれば慣れてしまい，セミナリーがない日でさえも5時30分に目が覚めてしまいます。

セミナリーが始まる6時30分までに教会に行ける電車はありませんので，毎日，母に車で送ってもらっています。その上，私のお弁当やみんなの朝食を作ってもらっています。ですから，こうして毎朝，セミナリーに出席できるのもみんな母のおかげだと思っています。

そして，レッスンの準備をしてくだ



梶内ご家族

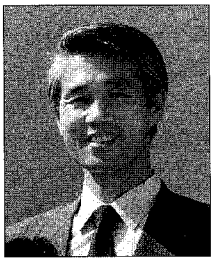
さる姉妹に感謝します。私は，母がインスティテュートの教師をしていて，前日になると夜中の２時近くまで準備しており，とても大変であることを知っています。私たちのために，毎日準備してくださることに，心から感謝しています。

セミナリーに集うにつれて，私は友達に教会のことを話せるようになりました。友達も少しずつ理解してくれて，最近では日曜日の集会などにも一緒に出席してくれるほどです。セミナリーを受けていなければ，友達に理解してもらおうなんて思わなかっただろうし，セミナリーの中でもまた，良い友達も得ることができなかったと思います。去年はたったひとりでセミナリーを受けていたのですが，今年は，７人もいて，毎日本当に楽しく学んでいます。

私たちのために準備してくださる教師の姉妹と母と，セミナリーの楽しさを教えてくれたセミナリーの友達に，心から感謝します。（**かじうち・なお** 支部音楽指揮者）

改宗を振り返って

郡山地方部
会津若松支部
梶内英一



「決して誘わない，迷惑を掛けない」という約束をして，バプテスマを受けた妻が，子供ふたりと教会へ通うようになり，間もなく教会の方が私の家へ来られ，また私がお抱え運転手を兼ねながら教会の活動に参加させていただく機会を重ねて，５年近くになろうとしています。今思えば「伝道」されていたのでしょうが，当時はまったく気付かず，単に「物わかりのいい夫」の域を脱することなく，教会の方からは，「改宗するのに一番むずかしいタイプ」と言われていたようでした。

そんな私でも，教会員になった妻が生き方に自信を持ち，壁にぶつかってもいつも前向きで，以前にも増して明るく寛大になっていった変化を高く評価していましたし，内心うらやましくも思っていました。特に，私の親には本当によく尽くしてくれ，心から感謝しています。また，このころ生きがいでもあった登山に，妻が私を理解しようとついてきてくれました。体力がなくなってきた30代後半のことです。

仕事の合間に，といった程度の気持ちから，インスティテュートに登録させていただいたのは昨年の４月でした。教師であった妻からの，みずから得た福音の良さ，大切さを私にも理解してほしい，との強い勧めと，私自身，人と人とのかかわりが「愛」を中心に展開されている主イエス・キリストの教えを，部分的にでも50人の子供たちと接するときに生かせたら，という思いもあったからです。

インスティテュートのレッスンは，むずかしく理解し難いものの，雰囲気が楽しく欠席を心苦しく感じるようになり，何とか都合をつけて毎週出席するようにしていました。そんなころでした。妻に問われたのは。少なからずショックでした。一応，養護施設の児童指導員の私が，子供の将来は，家族の在り方は，という問いに妻を納得させるに十分な説明ができなかったのです。

結果的にはそう悩むこともなく改宗し，バプテスマを受けました。昨年６月末でした。私の改宗が妻の問いに対し，答えを見いだすスタートラインだと信じたからです。

間もなくあれから１年になろうとしています。知れば知るほどむずかしい福音，実践に移せないもどかしさ。思い悩むことはたくさんあります。でもこれからは，神や主イエス・キリストに対する証が少しずつ強まっていくにつれて，解消されていくものと信じています。己を高め，自らを変えることが伝道の一歩であり，主に近づかんがためのひとつの手段であることを証します。そして，この教会が人間の真の幸福を説いている唯一の教会であることを証します。（**かじうち・えいいち** 長老定員会第二副会長）

主の恵み

仙台伝道部専任宣教師
小峰　忠

今私が宣教師として召され，働いていることを考えると，不思議な気持ちがします。私が教会のことを知ってバプテスマを受けたのは，まだ10歳のときでした。以来，教会は楽しくて通い続け，少しずつ福音を学び，弱いながらも証を得てきました。今あのころのことを思うと，主がどれほど私を愛してくださっていたのかを感じることができます。そして教会員ではありませんが理解を示してくれた親の励ましもあり，宣教師に召されることができました。

それは大きな祝福でした。けれども私は，福音は家庭の中で実践されて初めて本当に生きたものになるということを，数多くの教会員の家庭に接して理解していました。ですから，私の願いのひとつに家族の改宗がありましたが，私にとっては望みの薄い願いでした。伝道に出る前の日にモルモン経に証を書いて机の上に置き，そのモルモン経にすべてを託して私は日本宣教師訓練センターへと向かいました。そこで，ある姉妹が教義と聖約第31章５―６節を読み，私は伝道によって家族が祝福を得ると改めて知り，また希望を持つようになりました。それ以来個人で祈るときは家族のことを祈り，あとはすべて主にゆだねて伝道しました。

今までの10カ月以上の伝道生活は私にとって大きな財産となる経験でした。どちらかというとのどかな，河や山に恵まれた町の中で多くの人々に会ってきました。ある任地では，モルモン経を初めて読んで祈ったその日に強く聖霊を感じて，証を得て教会に入った男性がいました。この兄弟の友達は教会と教会の会員が好きになり，彼よりも早くからよく教会に来てはいましたが，バプテスマだけはどうしても決意できずにいました。何度も，先にバプテスマを受けた兄弟に証をしてもらったり，彼と共に断食をしたりしましたが，福音についての話を終わるたびにバプテ

小峰忠長老(左)。右の兄弟はバプテスマを受けた後，友人が改宗するのを手伝った。

スマの決意までは進まず，半分望みを失いかけていました。

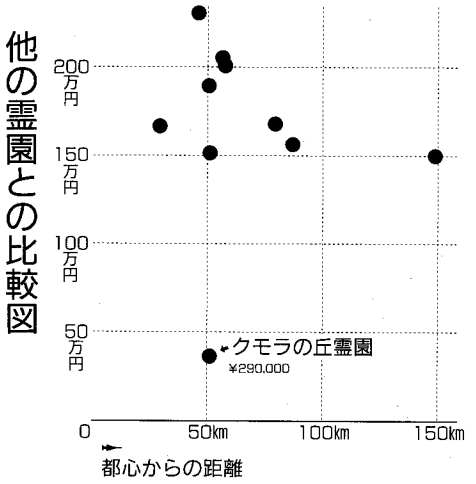
半年がたち，彼に福音を伝えるのもこれが最後という日になりました。すべてを話し終えた後，彼の口から出た言葉は，「バプテスマを受けたい」という短いものでした。「彼がバプテスマを受ける。」心は信じられないほどの深い喜びに包まれていました。その年の12月25日のクリスマスの日に彼はバプテスマを受け，私も長くいたその地から転任することになりました。この経験を通して私は，召されている地ではそこで何らかの働きをするように主から望まれていることを知りました。

そして一方では，母も何回か会員の訪問を受けていたようでした。けれどもこれといってだれからも特別な知らせが来るわけでもなく，やがて母自身からも考え方が合わないという手紙を受けたときは，やはりまだ母の改宗の時期ではないのだろうかとも思いました。しかし12月に入って藤沢ワード部で働いている姉妹宣教師から手紙をもらい，母が福音を学んでいることを知りました。その後も母の中に不安や，一筋縄ではいかない問題があったことを私はよく知っています。しかし主の導きにより，1月17日，無事母のバプテスマ会が行なわれました。私は何があって母の心が変化していったのか詳しくはわかりません。しかし主は，至らぬ私と私の家族にも約束された祝福を与えてくださいました。主はいつも人の計り知れない方法で限りない恵みを与えてくださると感じることができます。心から主に，またいろいろ助けてくださった会員や姉妹宣教師たちに感謝します。この福音が確かに真実であり，主はいつも私たちを心にかけてくださり，いつも私たちはモーサヤ書第2章にあるように主から恵みを受けていることを心から証します。(**こみね・ただし**　町田ステーキ部藤沢ワード部出身)

「クモラの丘霊園」
1991年度分譲のお知らせ

所在地：埼玉県入間郡毛呂山町長瀬1313

「クモラの丘霊園」分譲の今年度募集の締め切りは，1991年12月31日です。永代使用料は毎年値上がりいたします。分譲希望者は，早目にお申し込みください。



1．墓地永代使用料 支払い方法	1区画 290,000円*注 一括または分割払い。分割払いの場合は，初回金 6,800円，以降毎月 4,800円59回払いの無利子分割払いとなります。
2．墓地管理料	年間 3,000円(初回金とともに1年分を前納し，以降毎年定められた期日までに支払うものとします)
3．申し込み方法	以下の書類をクモラの丘霊園事務局に提出してください。 (1)クモラの丘霊園使用申し込み書 (2)住民票 (3)クモラの丘霊園永代使用契約書2通 (4)銀行自動振替手続き書類
4．今年度申し込み期限	1991年12月31日まで
5．墓所の指定	申し込み書類受領確認の後，順番に行ないます。
6．初回金および 管理料の振込先	三和銀行青山支店 普通預金口座　219499 クモラの丘霊園　　代表　岡本 亮
7．お問い合わせ先	〒106 東京都港区南麻布5―10―30 末日聖徒イエス・キリスト教会内 クモラの丘霊園事務局 電話03(3440)2351(代)

＊注　来年度は一区画295,000円となります。支払い方法は従来どおり一括または分割払いで，分割払いの場合は，初回金5,900円，以降毎月4,900円59回払いの無利子分割払いとなります。

母の改宗

新潟地方部新潟支部
藤崎久美子

何年も前，ひとりの兄弟が伝道を終えて新潟に帰還してすぐ，自分のお母さんにバプテスマを施しました。私には，白いドレスを着て幸せそうに座っている姉妹の顔が母の顔に見えて仕方がありませんでした。「私も伝道に出て帰ったときに母がバプテスマを受けたらどんなに幸せだろう。」そんなふとした思いもいつしか忘れ去り，何年かが過ぎていきました。

やがて私は伝道に出ることが決まり，期待と不安に胸を膨らませながら，召しを待っていました。しかしそのころから私たち家族の試練が始まりました。召しを受ける1週間ほど前，風邪をこじらせた父が救急車で運ばれ，かなり進行した糖尿病だとわかり，1カ月ほど入院することになりました。物心ついてから一度も入院したことのなかった両親なのに，なぜ私が伝道に出ようというこの時期に，父が入院するのだろう。伝道に対する不安を感じましたが，父は順調に回復し，私も名古屋伝道部に無事赴任しました。

しかし1年もたたないうちに父は2度足を骨折し，父の相次ぐ入院からくる心労と過労で，母までも入院していたのです。命に別状ないとはいえ，激しい体の痛みと入院生活で，母は精神的に相当ダメージを受け，自らの死の恐怖と，父の病気と不自由になった体への心配で，眠れなくなったのでした。

約1カ月後の昨年3月初旬，叔母から家族の状態を知らせる速達が届き，母を安心させるためにとにかく1度帰ってほしいと書いてありました。私は早速，両親の住む長野県飯田市に1週間戻る許可を伝道部長にもらいました。しかしその時点で母の退院のめどは立っておらず，このような状態がいつまで続くのか皆目見当もついていません。私は同僚や地区の宣教師から励まされ，監督長老から神権の祝福を受けて平安な気持ちで，宣教師として主の愛とみたまを携えて仕える機会に感謝しながら両親のもとに向かいました。

病室に入ると，母は私の手を取り泣きました。後から病室を訪れた父は，新潟へ転勤の内示があったので5月の初めには新潟に戻ると告げました。私は主の導きを感じました。両親の故郷である新潟には親類縁者がたくさんいるうえに，伝道前に私が集っていた新潟支部の信頼する兄弟姉妹もたくさんいたからです。私の心に，新潟での母のバプテスマという望みがよみがえりました。何とか母に主のみたまと天父の愛を味わってほしいと思い，癒(いや)しの儀式を受けるように勧めました。母は天父にすがる思いで私の申し出を受け入れ，諏訪支部の兄弟たちから儀式を受けました。ふたりは遠い道のりを喜んで来て，初めて会った母に愛と思いやりを示し，儀式を施してくれました。母は兄弟たちが帰った後で私に「教会の人たちには何とも言えない温かい雰囲気があるね」と言い，また寒い屋上で儀式を受けたにもかかわらず「体中がぽかぽかして暖かい」と，その夜ぐっすり眠りました。この言葉から母が主のみたまを感じていることを知り，天父に深く感謝しました。翌日には母の退院のめども立ち，私は予定どおり伝道に戻りました。

1カ月半後，夜中の12時過ぎ，アパートに電話の音が鳴り響きました。あわてて受話器を取ると，聞こえてきたのは母の声でした。「私は明日死ぬかもしれないから，久美子に話しておきたいことがある。今すぐ帰って来て。」取り乱し，何かに追われているような母の口調に，私は大きな不安と深い悲しみに覆われました。「これから私たちはどうなるのだろう。母は本当に死んでしまうのだろうか。伝道はどうなる？」様々な思いが頭の中で渦巻きました。再び新潟の両親のもとに帰ったものの，今回はもう一度伝道に戻れるという保証はありません。

私を迎えた母はまったく別人のようでした。にこやかだった母の顔にはほほえみはなく，口から出るのは否定的な言葉ばかりでした。入院のショックが大きすぎたために自分自身と家族について悩み抜き，思い詰めて精神が一時的に衰弱してしまったのです。生活の中から，幸福や平安を見いだすすべを失っていたのでした。24時間絶えず襲い掛かってくる不安や恐れと，精神的な疲労からくる体の痛みとの二重の苦しみの中で母はもがいていました。

最初は母を助けたい一心で，ずっとそばについていました。しかし，母の心に光と愛を取り戻すべく努力しても何の効果もないように思われ，私の心は次第に暗く沈んでいきました。「神様，私ひとりではこの重荷には耐え切れません。」心の中でそうつぶやいたまさにそのとき，同僚から電話がきました。「今，姉妹と話をしたかったから電話したの。大丈夫？　愛してるよ。」彼女の声を聞いたとき，天父が私の心の思いを聞き，同僚を通して愛と慰めを与えてくださったことを知りました。多くの兄弟姉妹や宣教師たちも毎日のように電話や訪問，手紙や薬草などの愛の込もった贈り物をしてく

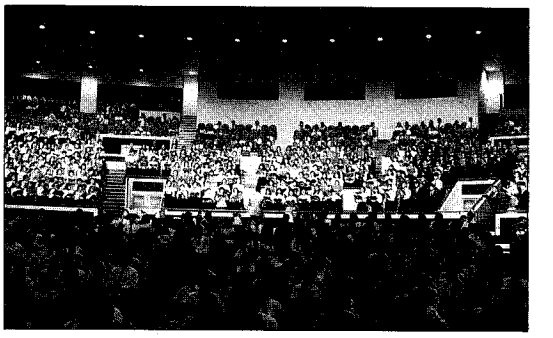
藤崎久美子姉妹(前列右)と母親の静子姉妹(前列中央)

れました。私はこのような大きな愛によって試練に耐える力を得，母も少しずつ変わっていきました。

こんな状況の中で，天父や両親や私にとって一番良いことをしたいと望みながらも，伝道をとるか両親をとるか，私は決断できずに悩んでいました。頭では両親のもとに残る方が良いと思いながらも，短い時間で驚くほど落ち着きを取り戻しつつある母の姿を見ると，伝道に戻りたい気持ちが強くなっていきます。ちょうどそのころ金沢で北陸地方部大会があり，出席を許可された私は，訪問されたダグラス・H・スミス長老と伝道部長から神権の祝福を受けました。「私はあなたを愛しています。あなたが伝道を全うするなら，家族が祝福されるでしょう。」まさに天父のみ言葉でした。みこころを確信し，神の愛に満たされ，勇気づけられた私は，両親に伝道に戻る決心を伝えました。両親は絶対反対でした。私を知る多くの人々も反対でした。けれどもアルマ書19章9—10節を読んだとき，強いみたまを感じ，ラモーナイ王の后（きさき）のようなあつい信仰を持ちたいと思いました。周囲の反対を受けて悲しみながら祈っていると，心は不思議なほど平安になりました。そして祝福の言葉と祈りの答えが確かに神様からの答えであり，そのとおりになると固く信じて説得を続けた結果，新潟に戻って3週間後，伝道に戻ることができました。

昨年の10月27日，私は1年半の伝道を終えて，両親の待つ新潟に戻りました。そして翌28日，母は新潟支部の兄弟姉妹が見守る中，白いドレスに身を包み，水に沈められるバプテスマを受けたのです。それは，何年も前に私が夢見た光景でした。神様は確かに生きておられ，この世の神権者たちを通して，私たちに語り掛けておられます。モルモン経は確かに真実の神のみ言葉が書かれた書物であり，この教会は真の神の教会です。これからは母とふたりで，主と愛する兄弟姉妹に恩返ししていきたいと心から願っています。多くの兄弟姉妹の愛と奉仕に心から感謝いたします。（**ふじさき・くみこ**　ヤングシングルアダルト扶助協会代表）

関東合同地区大会開かる



去る9月7，8の両日，十二使徒定員会会長のハワード・W・ハンター長老，十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老並びにアジア地域会長会第二副会長のW・ユージン・ハンセン長老を迎えて，関東3地区（東京，東京北，高崎地区）の8ステーキ部と本州米軍人地方部合同の地区大会が開催された。

7日（土）は東京ステーキ部センターで4時間にわたって神権指導者会が開かれ，595人の神権指導者が出席した。「神権指導者はイエス・キリストのような愛と徳を持ちなさい。そして自分たちの後ろに列を作って従ってくる人々に愛の模範と霊性とを示しなさい。」幹部は一貫して，指導者としてのあるべき姿をそう説いた。また「多くの指導者はこの世のわずらいに惑わされている。さらにキリストに似た者となる努力をしてほしい」と警告を与え，「愛はすべて家庭から始まる。まず自分の妻に特別な関心を払うように」と勧告した。

8日（日）には一般大会が千葉県浦安市にある東京ベイNKホールで開かれ，5,325人が出席した。当日は台風15号の接近で土砂降りの雨となり，交通機関も一部不通となるなど開催が案じられたが，会員をはじめ大勢の人が朝早くから車などで次々と会場に詰め掛けた。幸い午後には台風も進路がそれ，一時晴れ間も見られるほどであった。集会では340人から成る8ステーキ部合同の聖歌隊が雰囲気を盛り上げ，霊感あふれる教会幹部の話や証の中では愛やみ業を迅速に進める大切さが強調された。特にハンター長老は83歳という高齢をおし，歩行が困難なために歩行器を使用しての出席であった。このような状況での，イエス・キリストの特別な証し人である十二使徒の来日は，彼らの日本の聖徒に対するたぐいない愛と期待の表われとも言えるのではないだろうか。

同会場で一般大会終了後に行なわれた，8ステーキ部合同の独身成人の集いには，1,000人以上の若人が出席し，4人の指導者から，仕事，伝道，神殿結婚などについての話と貴重な経験とを聞いた。

この地区大会の開催の陰には多くの指導者や実行委員，業者，聖歌隊員，そのほか様々な責任を果たした兄弟姉妹の，並々ならぬ努力があったことを付け加えたい。彼らに心からの感謝と敬意を表するとともに，日本の教会がさらに大いなる発展を遂げるよう願ってやまない。（地区大会実行委員会）

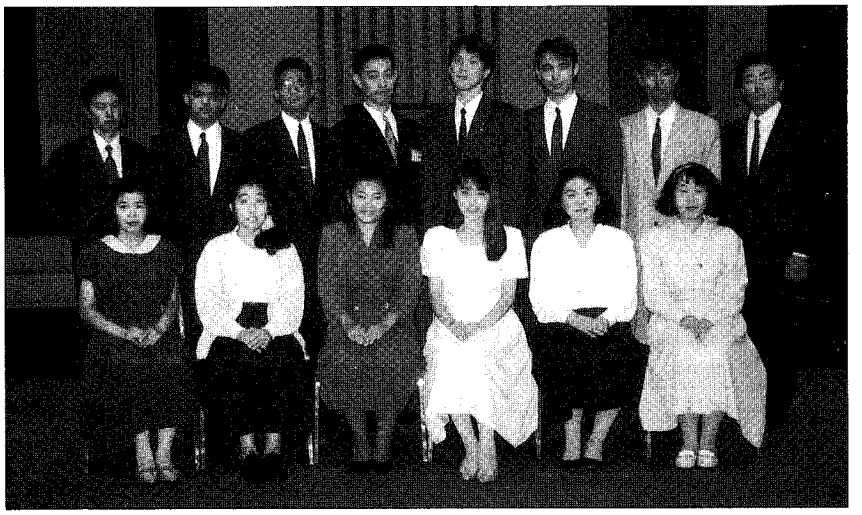
一般大会閉会後，別れを惜しむハンター姉妹，マックスウェル長老，ハンター長老，ハンセン長老，ハンセン姉妹（左から）

JMTC

ローカル

9月に召された専任宣教師

第147期生14人



後列左から1—8，前列左から9—14

〈名　前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 高畑太一	東京S／ひばりケ丘W	名古屋伝道部
2. 田中宏二	大阪北S／茨木W	沖縄伝道部
3. 中山俊介	東京西S／八王子第1W	仙台伝道部
4. 東　正　吾	鹿児島D／鹿児島B	名古屋伝道部
5. 西角達雄	町田S／藤沢W	岡山伝道部
6. 松沼久雄	東京S／ひばりケ丘W	岡山伝道部
7. 仲宗根良治	沖縄那覇S／那覇東W	名古屋伝道部
8. 長谷川洋士	東京南S／大岡山W	岡山伝道部
9. 渡辺ゆかり	東京北S／浦和W	岡山伝道部
10. 豊田千晶	三重D／白子B	神戸伝道部
11. 中山清子	St. George W. S／28th W	仙台伝道部
12. 内山宣恵	東京S／吉祥寺W	名古屋伝道部
13. 大川博恵	東京北S／浦和W	岡山伝道部
14. 佐藤慎子	青森D／弘前B	福岡伝道部

S：ステーキ部，D：地方部，W：ワード部，B：支部

お知らせ

ローカル

役員の任命

1991年8月16日から1991年9月6日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の異動(敬称略)

●札幌西ステーキ部琴似ワード部
新監督：工藤憲二
（前任者：守田雅光）

●札幌西ステーキ部新琴似ワード部
新監督：細矢広之
（前任者：菊谷欣広）

●札幌西ステーキ部手稲ワード部
新監督：藤原慶明
（前任者：岩本宏美）

●釧路地方部釧路支部
新支部長：平岩範夫
（前任者：大貫和永）

新ユニット

●名古屋ステーキ部瀬戸支部
支部長：篠原峰雄

名称変更

●札幌ステーキ部千歳恵庭支部
（千歳支部より名称変更）
支部長：菅原英二

編集室から

ローカル

皆さんの原稿を募集しています

▶ローカルページでは皆さんの原稿を募集しています。改宗談や日々の生活で得た証(仕事にかかわる証など)，本誌を読まれての感想文などをお送りください。

▶これまでローカルページでは証の著者の生年を記載しておりましたが，今後は記載しないことになりました。ただし編集作業の参考のため，投稿の際には従来どおり連絡先(電話番号)，教会での責任(役職名)に併せ，生年を記入してお送りください。

▶お送りいただいた原稿は一部手直しさせていただくことがあります。また，掲載されるまでには若干時間がかかる場合もありますのであらかじめご了承ください。

▶あて先：〒150 東京都渋谷区桜丘町28—8　末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室
☎03(5489)9251